佐賀県農業基盤整備事業に係る 文化財調査報告書 3

1985年3月

佐賀県教育委員会

佐賀県農業基盤整備事業に係る 文化財調査報告書 3

1985年3月

佐賀県教育委員会

はじめに

この報告書は、佐賀県農業基盤整備事業の施行に先がけて、国庫補助金を得て実施した埋蔵文化財調査報告書であります。

昭和59年度農業基盤整備事業施行予定地区について、昭和58年度に文化財確 認調査を行った結果、旧石器時代から江戸時代に至る多くの遺跡が確認されま した。

また佐賀平野は条里地割が広く施行された地域であり、その重要性に鑑みて 昭和58年度から埋没した条里遺構の確認調査も実施することにしました。

本書に収められた資料を、学術資料として、また重要な文化財を県民の共有 財産として大切に保存していくための資料として役立てていただければ幸いで す。

この調査にあたって、文化庁、県農林部、各市町村教育委員会・土地改良課・ 産業課並びに地元の関係各位の深いご理解とご協力に対し、心からお礼申し上 げます。

昭和60年3月31日

佐賀県教育委員会

教育長 志 岐 常 文

例 言

- 1. 本書は国庫補助を受け、昭和58年度に調査を実施した佐賀県農業基盤整備事業に伴う文 化財調査報告書である。
- 2. 調査は市町村教育委員会の協力を得て、佐賀県教育委員会が行った。
- 3. 本書の執筆者は次のとおりである。

° I 、 II 、 III - 2(4) · 3(1) · (8)	木下 巧	。 □-3(1) 田平徳栄・	東中川忠美
∘ III - 1 (1)	石橋新次	∘ ∭ - 4(1)	盛 峰雄
∘ III - 1 (3) · 3 (5) · (7),	2天本洋一	∘ III - 4 (3)、 V	古庄秀樹
∘ III - 1 (5)、 VI - 5	八尋 実	∘ VI - 3	久保伸洋
∘ III - 1 (6)、 VI - 7	堤 安信	° VI - 4 · 10 · 14	藤井伸幸
° ∭ - 2(1)	福田義彦	∘ VI-12 · 13	立石泰久
∘ III - 2(2), VI - 8 · 9	種浦 修	∘ W-15	松尾吉高
∘ II - 2 (3)	川崎吉剛	∘ VI-16	森田孝志
∘ II - 2 (5)	西村隆司	° Ⅲ - 1(2) · (4) · 3(2) · (3) ·	(4) • (6) •
∘ III - 3(1)、 VI -11	原田保則	4(2), IV, VI-6,	VII徳富則久

- 4. 遺構の実測は調査員・調査補助員が、遺構の写真撮影は調査員が行った。
- 5. 遺物実測・整図・報告書作成作業は、県文化課神埼発掘調査事務所で行った。
 - 。遺物整理…… 樋口菅子・中島三千代・梅野澄子・中島美須三・三好文子・古賀 安子・川頭久美
 - 。遺物実測………徳富
 - 整図………江口浩文・六田育子・梅野澄子・徳富
 - 。遺物写真撮影……原口定
- 6. 本書の作成・編集は、古庄秀樹の協力を得て、徳富・江口が行った。

凡 例

- 遺構番号に用いた分類記号はSB:住居跡・建物跡、SC:石棺墓、SP:土壙墓、SJ:カメ棺墓、SH:竪穴住居跡、SE:井戸跡、SD:溝跡、SK:土壙、SX:自然谷・不明、P:柱穴・小穴である。
- 2. 地図の方位は、国土地理院発行のものが座標北、その他はすべて磁北である。
- 3. 挿図中の、■は遺構・遺物包含層が検出された試掘溝、□は遺構・遺物包含層が検出されなかった試掘溝を、---は推定される遺跡の広がりを表す。
- 4. 調査期間は各調査現場での発掘調査期間である。

1.	謎	査に至る経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1	. н	昭和59年度農業基盤整備事業に伴う文化財確認調査	
	(1)		
	(2)	文化財確認調査	1
	(3)	開発と文化財保護に係る協議	1
2		里没条里確認調査	
Π.		査組織	
Ⅲ.	昭	3和58年度文化財確認調査の内容	4
1	. 4	左賀東部地区の調査	4
	(1)	鳥栖市 ·····	5
	(2)	北茂安町	5
	(3)	三根町	5
	(4)	三田川町	7
	(5)	神埼町 ·····	7
	(6)	千代田町	7
2	. 6	左賀西部地区の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	11
	(1)	佐賀市 ······	12
	(2)	諸富町 ······	12
	(3)	大和町	12
	(4)	小城町	15
	(5)	多久市 ······	
3		左賀南部地区の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	(1)	武雄市 ·····	
	(2)	北方町	20
	(3)	大町町	20
	(4)	白石町	21
	(5)	有明町 ·····	21
	(6)	塩田町	2
	(7)	嬉野町	
	0.7	太良町	
4	. 4	左賀北部地区の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	24

79.0	THE STATE OF THE S	
(1		25
(2		
(3		
5.	佐賀上場地区の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	29
N . :	埋没条里確認調査の内容	30
1.	調査の概要	30
2.	調査の内容	30
(1) 神埼郡	30
	① 神埼町	32
	② 三田川町	34
(2) 杵島郡	36
	① 有明町	39
	② 白石町	39
٧. :	筑後川下流用水事業に伴う埋蔵文化財確認調査の内容	42
1.	佐賀東部導水路	42
2.	大詫間幹線水路	42
W.	昭和58年度発掘調査の概要	43
1.	天建寺土井内遺跡 ·····	43
2.	天建寺南島遺跡	45
3.	大曲遺跡群	47
4.	石動西一本杉遺跡群	49
5.	的遺跡群船塚遺跡 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	51
6.	詫田西分貝塚·····	52
7.	姉貝塚	55
8.	徳富権現堂遺跡	59
9.	上大津遺跡	61
10.	織島西分 C 遺跡	63
11.	庄ノ前遺跡	65
12.	東宮裾遺跡群・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	67
13.	牛間田遺跡	69
14.	伊岐佐中原遺跡	71
15.	上場地区遺跡の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	72
	尾崎土生遺跡 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
VI.	総括	77

挿 図 目 次

第1図	農業基盤整備事業に伴う文化財確認調査地区・発掘調査遺跡位置図(昭和58年度)
	折り込み
第2図	佐賀東部地区周辺地形図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
第3図	鳥栖市 (一ノ坪地区) 試掘溝配置図
第4図	北茂安町(北茂安西部地区)試掘溝配置図 6
第5図	三根町(三根東工区)試掘溝配置図8
第6図	神埼町(神埼工区)試掘溝配置図 9
第7図	千代田町(千代田工区)試掘溝配置図10
第8図	佐賀西部地区周辺地形図 11
第9図	諸富町(諸富工区)試掘溝配置図13
第10図	大和町(川上南部第1地区)試掘溝配置図 14
第11図	大和町 (川上南部第2地区) 試掘溝配置図14
第12図	多久市(多久東部地区)試掘溝配置図16
第13図	佐賀南部地区周辺地形図(1)17
第14図	佐賀南部地区周辺地形図(2)18
第15図	佐賀南部地区周辺地形図(3)18
第16図	武雄市 (橋地区) 試掘溝配置図 19
第17図	有明町 (有明第3工区・白石広域農道) 試掘溝配置図22
第18図	佐賀北部地区周辺地形図24
第19図	伊万里市(天神搦地区)試掘溝配置図26
第20図	伊万里市(東山代東部地区)試掘溝配置図26
第21図	伊万里市(腰岳農免道路)試掘溝配置図 27
第22図	相知町(伊岐佐地区)試掘溝配置図28
第23図	上場地区周辺地形図29
第24図	神埼郡条里界線復原図31
第25図	埋没条里確認調査神埼地区第1・2・3 試掘溝位置図33
第26図	埋没条里確認調査三田川地区第4試掘溝位置図34
第27図	杵島郡条里界線復原図35
第28図	埋没条里確認調查有明地区第5試据溝位置図36
第29図	第 5 試掘溝遺構配置図37
第30図	埋没条里確認調査有明地区第6試掘溝位置図37

第31図							38
第32図	第8試掘	溝遺構配置	⊠				39
第33図	第8試掘	溝B溝跡出	土白磁実測	図			39
第34図	埋没条里	確認調査白	石地区第9	試掘溝位	置図 …		40
第35図							42
第36図	天建寺土	井内遺跡周	辺地形図…	•••••			43
第37図							45
第38図	大曲遺跡	群周辺地形	⊠				47
第39図	石動西一	本杉遺跡群	周辺地形図				49
第40図	船塚遺跡	周辺地形図					51
第41図	詫田西分	貝塚周辺地	形図				52
第42図	詫田西分	貝塚V区遺	構配置図…		•••••		54
第43図	姉貝塚周	辺地形図…					55
第44図	姉貝塚調	査区位置図					56
第45図	徳富権現	堂遺跡周辺	地形図				59
第46図	上大津遺	跡周辺地形	⊠				61
第47図	織島西分	C遺跡周辺	地形図				63
第48図	庄ノ前遺	跡周辺地形	図				65
第49図	東宮裾遺	跡群周辺地	形図				67
第50図	牛間田遺	跡周辺地形	図				69
第51図	伊岐佐中	原遺跡周辺	地形図				71
第52図	尾崎土生	遺跡周辺地	形図				75
			表	目		次	
表1 点	業基盤整	備事業施行	予定地内文	化財確認	調査一別	竞 (昭和58年月	建調査)折り込み
表 2 昭	3和58年度	発掘調査	遺跡一覧表				折り込み
			図	版	目	次	
図版 1	① 天建	寺土井内遺	跡 5 区全景	(東から) ②	6 区全景(東北	n6)
	③ SP6	01土壙墓			8 45	SCHOOL 7001	77/3
図版 2		寺南島遺跡	全景(南か	5)	2	SK139土壙	
	③ SE1			-000767		SD101溝跡	
	10. K 20. L				100		

図版 3	1	大曲B遺跡全景		② 大曲B遺跡SH011住居跡
	3	大曲柏原B遺跡 1 区北部地区全景(声	有か	ら)④ 大曲柏原B遺跡1区SC011石棺墓
	(5)	大曲柏原B遺跡 1 区掘立柱建物群		⑥ 大曲柏原B遺跡1区全景(南から)
図版 4	1	石動西一本杉遺跡全景	2	石室 (北から)
図版 5 — 6	1	詫田西分貝塚V区全景(南から)	2	V区東南隅墓群全景(南から)
	3	V区東南隅墓群全景(西から)	4	SJ036カメ棺墓
	(5)	SJ047カメ棺墓	6	SP106土壙墓
	7	SP095土壙墓(小児骨出土状況)		
図版7	1	4 区出土銅鉾鋳型	2	7 区出土銅剣鋳型
図版 8	1	7 区南側全景	2	8 区全景
	3	7 区北側全景	4	5 区東側全景
	(5)	7 区SE7138井戸跡遺物出土状況	6	4 区SK4004土壙
	7	7区SK7101貯蔵穴		
図版 9	1	徳富権現堂遺跡 2 次調査区全景()	東か	6)
	2	徳富権現堂遺跡 2 次調査区全景(西	から	5)
	3	SE204井戸跡	4	SK207土壙
図版10	1	上大津遺跡全景(北から)	2	上大津遺跡全景(南から)
	3	1 区井戸跡出土の馬の頭骨	4	2 区SE030井戸跡
	(3)	4 区SB001建物跡	6	4 区SJ020埋ガメ
	7	5 区SD001溝跡 (西から)	8	5 区墨書土器出土状況
図版11	1	織島西分C遺跡A区全景(北東から)	2	織島西分C遺跡A区全景 (南東から)
	3	A区SB038建物跡(東北東から)	4	A区013土壙 (北から)
	(5)	A区SE044井戸跡 (北から)	6	B区SK061土壙出土人面篦描き土師器
図版12	1	庄ノ前遺跡40杭以北全景(南から)	2	庄ノ前遺跡30杭以南全景(北から)
	3	庄ノ前遺跡SB023住居跡(西から)	4	庄ノ前遺跡試掘溝北全景 (東から)
図版13	1	立山遺跡全景(北から)	2	立山遺跡南部地区全景 (北西から)
	3	立山遺跡 土壙		
図版14-15	1	牛間田遺跡1区全景(北から)	2	牛間田遺跡1区全景(南から)
	3	1区SK001土壙	4	2区全景 (南西から)
	(3)	2 区掘立柱建物跡 (北から)	6	2 区掘立柱建物跡 (西から)
	7	2 区据立柱建物跡石臼出土状況(北	とから	ら) ⑧ 2区小穴群(北から)
図版16	1	尾崎土生遺跡12区全景(西から)	2	尾崎土生遺跡13区全景
	3	尾崎土生遺跡14区全景(西から)		

Ⅰ 調査に至る経過

1. 昭和59年度農業基盤整備事業に伴う文化財確認調査

(1) 設計協議

昭和53年4月の県農林部と県教委の「農業基盤整備事業に係る埋蔵文化財の保護に関する確認事項」に基づいて、工事に先立つ2年前の昭和58年9月(実質的には前年)に農業基盤整備事業施行計画について事業担当部局から文化財保護担当部局へ協議がなされた。昭和59年度は、佐賀東部地区(基山町・鳥栖市・北茂安町・三根町・三瀬村・東脊振村・三田川町・神埼町・千代田町)409 ha、佐賀西部地区(富士町・大和町・佐賀市・諸富町・川副町・多久市・小城町)347 ha、佐賀南部地区(武雄市・山内町・北方町・大町町・白石町・有明町・福富町・鹿島市・塩田町・嬉野町・太良町)618 ha、佐賀北部地区(伊万里市・西有田町・相知町・七山村・肥前町)116 ha、佐賀上場地区(唐津市・肥前町・玄海町・鎮西町・呼子町)292 haの合計1,782 haである。施行主体は、九州農政局上場水利事業所々管の国営、佐賀県農林部所管の県営、市町村所管の団体営事業に区分される。また、水資源開発公団所管の筑後川下流用水事業工事に伴う(神埼町・千代田町・佐賀市)協議もなされた。

(2) 文化財確認調査

協議された設計書について現地踏査の結果等をもとにして検討を行い、確認調査の必要な地区と遺跡の存在が認められない地区との区別を行う。ついで遺跡の存在が考えられ、確認調査の必要が認められる市町村(表1)の教育委員会、土地改良担当課、当該事業を所管する県農林部・上場水利事業所との第1回目の合同四者協議会を県教育委員会が主催して10月13日に開催した。

その合意を経て文化財確認調査を稲刈りが終了した10月下旬から麦の作付が始まる12月上旬までの間に行ったが、農作物の状況によっては調査時期がずれることもあった。確認調査は原則として、2m×2mの試掘溝を20m間隔で碁盤目状に設定し、埋蔵文化財の有無、性格、広がりなどを調査した。

(3) 開発と文化財保護に係る協議

確認調査の結果を検討して各事業施行区内の詳細な遺跡分布図が完成し、佐賀東部地区73,700㎡、佐賀西部地区66,500㎡、佐賀南部地区1,600㎡、佐賀北部地区10,000㎡、佐賀上場地区23,700㎡の計175,5千㎡の遺跡が確認された。開発と文化財保護の調整を計る第2回目の合同四者協議会が12月5日に開かれた。その後、59年3月中旬まで各市町村教委が主体となって個別協議が継続され、3月26日に第3回目の合同四者協議会を行い、昭和59年度の開発と文化財保護との最終調整がなされた。これらの調整で、175.5千㎡の遺跡のうち、129千㎡については農業基盤整備事業担当部局で設計変更による盛土保存等の処置がとられることになった

が、残る48千㎡については発掘調査を実施し記録保存することになった。

本年度、市町村教育委員会が実施した発掘調査は、昨年度に同様な方法で確認調査を実施し、 農業基盤整備担当部局との協議を経てきたものである。

2. 埋没条里確認調查

周知の通り佐賀県では弥生時代以来、稲作が営々と営まれてきたことが明らかにされている。 この稲作の存在はすなわち、稲作りを可能にした、人々の土地への働きかけがあったことを意 味する。例えば、大化改新の詔に従って施行されたといわれる条里地割、平安~室町時代の荘 園制による地割、平安時代以来の様々な新田開発、溝渠の開削、用水事業、干拓事業等枚挙に 暇がない。これらの地割の変遷は、現在の地割として、又埋没した遺構として残されている。

しかし、佐賀県では、昭和40年代以来農業基盤整備事業が実施されているが、これによって 旧来行われてきた地割や、地下に埋没した地割遺構が改変されており、これに伴って地籍図や 伝統的地名も消滅しようとしている。

佐賀県でも県教委が主体となり、特に条里地割について対応計画が立てられ、その一環として昭和58年度より埋没条里確認調査を実施することにした。調査は、比較的条里地割が良好な状態で残っている神埼郡神埼町・三田川町、杵島郡白石町・有明町の当該年度工事地区について実施した。

Ⅱ 調査組織

1. 調査主体

2. 事 務 局 佐賀県教育委員会 神 埼 町教育委員会
十代田町教育委員会
小 城 町教育委員会
小 和 町教育委員会
諸 方 町教育委員会
北 町教育委員会
北 町教育委員会
明教育委員会
垣 町教育委員会

 局 長 中島 信行 県文化課課長 庶務・会計 中野 安正 県文化課庶務係長
次 長 山田 陸三 県文化課課長補佐 山口 勝 県文化課庶務係
次 長 高島 忠平 県文化課課長補佐 山下 行夫 県文化課庶務係
東 英明 県文化課庶務係
井原 裕子 県文化課庶務係

3. 調査委員会

委員長 古藤 浩 佐賀県教育長 委 員 岡崎 敬 県文化財保護審議委員 委 員 高橋 一之 佐賀県教育次長 小田富士雄 県文化財保護審議委員 积 憲正 佐賀県教育次長 沢村 仁 県文化財保護審議委員 杉谷 昭 県文化財保護審議委員 三島 格 県文化財保護審議委員

4. 調 査 員

調査主任 木下 巧 県文化課文化財調査第2係長

調 査 員 中牟田賢治 県文化課文化財調査第1係長 福田 義彦 佐賀市教育委員会 田平 徳栄 県文化課文化財調査第1係 中島 直幸 唐津市教育委員会 東中川忠美 県文化課文化財調査第1係 藤瀬 禎博 鳥栖市教育委員会 坂井 健二 県文化課文化財調査第1係 石橋 新次 一ノ瀬憲昭 県文化課文化財調査第1係 西村 隆司 多久市教育委員会 天本 洋一 県文化課文化財調査第2係 原田 保則 武雄市教育委員会 盛 立石 泰久 県文化課文化財調査第2係 峰雄 伊万里市教育委員会 藤井 伸幸 県文化課文化財調査第2係 八零 実 神埼町教育委員会 徳富 則久 県文化課文化財調査第2係 諸方裕次郎 森田 孝志 県文化課文化財調査第2係 堤 安信 千代田町教育委員会 古庄 秀樹 県文化課文化財調査第2係 川崎 吉剛 大和町教育委員会 松尾 吉高 県文化課文化財管理係 種浦 修 諸富町教育委員会

調查補助員 六田育子

5. 調查協力

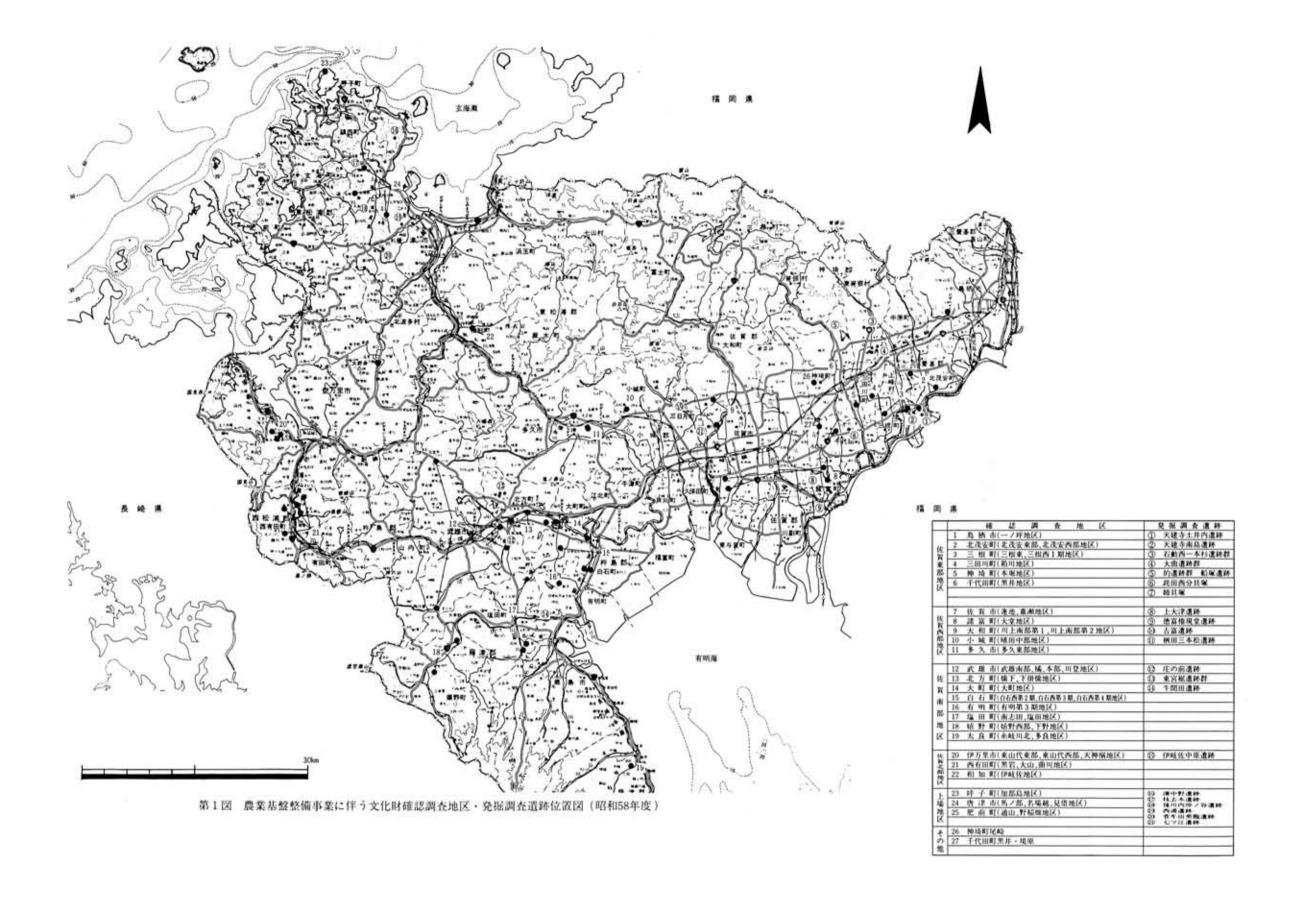
九州農政局上場水利事業所、県農林部、佐賀中部農林事務所、鳥栖農林事務所、武雄農林事 務所、鹿島農林事務所、伊万里農林事務所、唐津農林事務所、各市町村土地改良担当課、地元 各位

表 1 農業基盤整備事業施行予定地内文化財確認調查一覧表 (昭和59年度調查)

地 区	市町村名	工事地区名	所 在 地	調査対象面積	調 査 結 果	備考
	鳥栖市	- / 坪	鳥栖市山都町一ノ坪	2.7ha	奈良・平安時代の生活跡	一ノ坪遺跡
44-	北茂安町	北茂安東部	北茂安町大字江口	27	遺構・遺物は検出されなかった	
佐		北茂安西部	北茂安町大字中津隈	28	平安~室町時代の集落跡	中津隈遺跡
N	三根町	三 根 東	三根町大字西島	39	弥生~中世集落跡	本分遺跡
東		三根西第1	三根町大字寄人	13	遺構・遺物は検出されなかった	
部	三田川町	三田川工区(箱川)	三田川町大字箱川	20	遺構・遺物は検出されなかった	
1000	神埼町	神埼工区(本掘)	神埼町大字本掘	120	弥生〜室町時代の集落跡	荒堅目貝塚
	千代田町	千代田工区(姉)	千代田町大字姉・黒井	100	弥生時代の集落跡・貝塚	黒井遺跡
	佐賀市	佐賀工区(蓮池)	佐賀市蓮池町見島	36	遺構・遺物は検出されなかった	
佐		佐賀工区(嘉瀬)	佐賀市嘉瀬町中原	40	遺構・遺物は検出されなかった	
賀	諸富町	諸富工区(大堂)	諸富町大字大堂	95	弥生~近世の集落跡	村中角遺跡他
	大和町	川上南部第1	大和町大字久留間	26	- 弥生時代の集落跡	AND 17 AND 18
西		川上南部第2	大和町大字池ノ上	27	弥生時代の集落跡	楢田遺跡
部	小城町	晴田中部	小城町大字畑田	5	明瞭な遺構・遺物は検出されなかった	
	多久市	多久東部	多久市東多久町下多久	20	旧石器~縄文時代遺物包含層 弥生時代の集落跡	中小路增富遺跡
	武雄市	本 部	武雄市若木町本部	12	遺構・遺物は検出されなかった	
		川登	武雄市東川登町袴野	28	遺構・遺物は検出されなかった	
		械	武雄市橫町片白	14	弥生時代 墓地	
		武雄南部	武雄市橫町片白	25	遺構・遺物は検出されなかった	
	北方町	橋 下	北方町大字声原	24	遺構・遺物は検出されなかった	
佐		下 掛 橋	北方町大字志久	6	遺構・遺物は検出されなかった	
	大町町	大 町	大町町大字福母	10	遺構・遺物は検出されなかった	
質	白石町	白石西第2	白石町大字東郷	18	遺構・遺物は検出されなかった	
		白石西第3	白石町大字横手	26	26 遺構・遺物は検出されなかった	
eder.		白石西第4	白石町大字堤・湯崎	30	遺構・遺物は検出されなかった	
南	有明町	有明第3	有明町大字辺田・田野上	43	中世~近世の生活跡	辺田三本松遺跡
	塩田町	南忠田	塩田町大字久間	2	遺構・遺物は検出されなかった	
部	-	塩 田	塩田町大字谷所	19	遺構・遺物は検出されなかった	
	姒 野 町	姒 野 西 部	嬉野町大字岩屋川内	7	遺構・遺物は検出されなかった	
		下 野	嬉野町大字下野	6	遺構・遺物は検出されなかった	
	太良町	糸 岐 川 北	太良町大字糸岐	13	遺構・遺物は検出されなかった	
		多良	太良町大字多良	15	遺構・遺物は検出されなかった	
	伊万里市	天 神 搦	伊万里市東山代町天神、浦川内	2	中世の遺物包含層	天神搦遺跡
		東山代東部	伊万里市東山代町脇野、浦川内	3	弥生~中世の遺物包含層	浦川内東方遺跡
佐		東山代西部	伊万里市東山代町大字大久保	5	遺構・遺物は検出されなかった	
N	-	腰 岳	伊万里市二里町	1	縄文時代の石器製作遺跡	鈴桶遺跡
北	西有田町	曲川	西有田町大字曲川	28	遺構・遺物は検出されなかった	
		大 山	西有田町大字大木	25	遺構・遺物は検出されなかった	
部		黒 岩	西有田町大字山谷	5	明瞭な遺構・遺物は検出されなかった	
	相知町	伊 岐 佐	相知町大字伊岐佐	18	平安・鎌倉時代の製鉄所跡	伊岐佐伊良尾遺跡
	唐津市	小 +	唐津市大字梨川内	2.2	近世の陶器物原	小十遺跡
		名 場 越	唐津市大字枝去木	4.6	旧石器・縄文時代の遺物包含層	
300		見借	唐津市大字見借	9.4	弥生時代の集落跡	見借遺跡
佐		馬部	唐津市大字枝去木	8.4	縄文時代の集落跡	O STATE OF THE STA
SV.	肥前町	通山、野稲畑	肥前町大字納所	9.7	旧石器・縄文時代の遺物包含層	池ノ田Ⅰ遺跡
		上倉ダム	肥前町大字上ヶ倉	1.5	遺構・遺物は検出されなかった	
上		技去木幹線水路		1.5	遺構・遺物は検出されなかった	
場	玄海町	栄	玄海町大字石田	0.3	遺構・遺物は検出されなかった	
9758	鎮西町	丸 田	鎮西町大字丸田	2.3	遺構・遺物は検出されなかった	
	呼子町	加部島	呼子町大字加部島	10.7	古墳	御手洗古墳他

表 2 昭和58年度 発掘調査遺跡一覧表

地 区	市町村名	遺 跡 名	略号	遺跡所在地	調査面積	調 査 期 間	調査主体者	遺 跡 の 内 容
	三根町	天建寺土井内遺跡	T K D	三根町大字天建寺字土井内	1,700m ^r	昭58.4~昭58.6	三根町教委	古墳時代~中世集落跡、近世墓地
	.H	天建寺南島遺跡	T K M	三根町大字天建寺字南島	1,000m	昭58.8~昭58.10	三根町教委	弥生・中世の集落跡
	東脊振村	大 曲 A 遺 跡	O M G(A)	東脊振村大字大曲字亀作	1,000m)	東脊振村教委	中・近世の集落跡
佐	n.	大 曲 B 遺 跡	O M G(B)	東脊振村大字大曲字柏原	7,290m		東脊振村教委	弥生~中世の集落跡
	n	大曲柏原A遺跡	O K W(A)	東脊振村大字大曲字柏原	1,400m ⁺	昭58.4~昭59.3	東脊振村教委	中近世の溝跡・土壙
致	л	大曲柏原B遺跡	O K W(B)	東脊振村大字大曲字松ノ内	370m²		東脊振村教委	弥生時代の集落跡・墓地
東	.11	松 ノ 内 遺 跡	M N U(B)	東脊振村大字大曲字松ノ内	140m	J	東脊振村教委	平安~鎌倉時代の集落跡
*	л	石動西一本杉遺跡群	N I S	東脊振村大字石動字西一本杉	350m	昭59.2~昭59.3	東脊振村教委	古墳
部	神埼町	的 遺 跡	Y K W	神埼町大字的字五本松	10,000m	昭58.9~昭59.3	神埼町教委	弥生・古墳時代の集落跡
202-1	"	的遺跡群・船塚遺跡	F N T	神埼町大字志波屋字六本松	3,500m	昭58.4~昭58.5	神埼町教委	旧石器・縄文・古墳時代の集落跡・墳墓
	千代田町	詫 田 西 分 貝 塚	T T N	千代田町大字詫田字本村 他	300m	昭58.4~昭58.6	千代田町教委	弥生・近世の墓地・集落跡
	"	姉 貝 塚	A N E	千代田町大字姉 字五本松	14,000m	昭58.8~昭59.3	千代田町教委	弥生時代の集落跡
	大和町	ल 田 三 本 松 遺 跡	N S M	大和町大字池ノ上字三本松	3,000m ^r	昭58.4~昭58.8	大和町教委	弥生時代の集落跡
佐	n	吉 富 遺 跡		大和町大字久留間字吉富	1,200m	昭58.8~昭59.3	大和町教委	中世の集落跡
30	三日月町	織島西分C遺跡	O N C	三日月町大字織島字西分	3,000m ^r	昭58.4~昭58.5	三日月町教委	古代~中世の集落跡・墳墓
部	諸富町	德富権現堂遺跡	T G S	諸富町大字德富字本村 他	2,000m ^r	昭58.7~昭59.3	諸富町教委	弥生~鎌倉時代の集落跡
DP	· ·	上大津遺跡	K O T	諸富町大字德富字上大津	3,300m	昭58.9~昭59.3	諸富町教委	古墳~江戸時代の集落跡
	武雄市	庄 ノ 前 遺 跡	S H O	武雄市橘町大字片白字志田町	2,300m	昭58.7~昭58.10	武雄市教委	古墳~平安時代遺物包含層·中世集落到
佐	北方町	立 山 遺 跡	T T V	1	1		北方町教委	弥生~中世の集落跡
賀	n.	立山 2 号墳	TTY	北方町大字大崎	1,600m	昭58.7~昭58.10	北方町教委	古墳
南	.H	松 瀬 戸 遺 跡	M S T				北方町教委	弥生時代~中世の生活跡
部	.11	桜 木 遺 跡	S R G	J			北方町教委	弥生時代の生活跡
	有明町	牛 間 田 遺 跡	U M D	有明町大字深浦字牛間田	1,700m ⁻	昭58.12~昭59.2	有明町教委	近世の生活跡
左 賀 北 部	相知町	伊岐佐中原遺跡	I K N	相知町大字伊岐佐字中原	2,000m	昭58.8~昭58.10	相知町教委	縄文・弥生時代・中世の集落跡・墓地
	唐津市	後川内仲ノ谷遺跡		唐津市大字後川内字仲ノ谷	5,500m	昭58.12~昭59.1	唐津市教委	旧石器~縄文時代の遺物包含層
#	u	管车田黑龍遺跡		唐津市大字管车田	600m	昭59.3	唐津市教委	旧石器時代の遺物包含層
佐	#	西 浦 遺 跡		唐津市大字神田字西浦	3,100m	昭58.7~昭59.3	唐津市教委	古墳時代~近世の集落跡
R L	"	枝去木遺跡		唐津市大字枝去木	1,400m ⁻	昭58.7~昭59.3	唐津市教委	旧石器時代の遺物包含層
	ji.	湊 中 野 遺 跡		唐津市大字湊町	15,000m	昭58.4~昭59.3	唐津市教委	弥生時代の集落跡
場	"	館 崎 遺 跡 群		唐津市大字字本	3,000m	昭58.11~昭59.3	唐津市教委	縄文一弥生時代の驀地
	肥前町	七ツ江遺跡		肥前町大字鶴牧	2,500m	昭58.5~昭59.3	肥前町教委	縄文時代の遺物包含地
左賀東部導水路	神埼町	尾崎土生遺跡	0 S H	神埼町大字尾崎	1,139m	昭58.4~昭58.10	佐賀県教委	古墳・古代~中世の集落跡



Ⅲ. 昭和58年度文化財確認調査の内容



- 1、鳥栖市 (一ノ坪地区)
- 2、北茂安町(東部地区)
- (西部地区)
- 4、三根町(三根東地区)
- 5、 (三根西I期地区)
- 6、三田川町(箱川地区)
- 7、神埼町 (本掘地区)

- ①、天建寺土井内遺跡
- ②、天建寺南島遺跡
- ③、石動西一本杉遺跡群
- ④、大曲遺跡群
- 8、千代田町 (黒井地区) ⑤、的遺跡群 船塚遺跡
 - ⑥、詫田西分貝塚
 - ⑦、姉貝塚

第2図 佐賀東部地区周辺地形図

(1) 鳥栖市 (一ノ坪地区、第3図)

一ノ坪地区は、九平部山から雲野尾峠をへて南に廷びる山地に、南から貫入する小支谷の最 奥部に位置する。付近一帯は、標高55m~72mで谷頭から低地へ延びる小扇状地をなす。もと は「市坪」と記していたが、付近に「四ノ坪」という地名も遺存していることを考慮すれば、 律令制下の条里地割に起因する地名であることは疑いなく、条里制遺構など、奈良・平安時代 に係る遺構・遺物の出土が予測された地区である。

調査は、対象地2.7 ha に対し、削平される部分に限り21ヶ所の試掘溝を設定し実施した。 その結果、扇頂部付近に設けた6ヶ所の試掘溝から少量ではあるが奈良・平安時代に属する土 師器・須恵器とともに、住居跡及び柱穴が検出された。

遺跡は、遺物の量も少なく遺構の分布も粗いことから、さして規模は大きくないと思われ、 谷部の扇状地上という立地条件を考慮すれば、作業時に使用する作小屋的な性格を考えさせる 遺跡と思われる。なお遺跡は、さらに扇頂部寄りに伸びると思われ、その範囲は東西約100m、 南北約50mに拡がると推測される。

(2) 北茂安町(北茂安東部地区·北茂安西部地区、第4図)

北茂安町東部地区は北茂安町大字江口に所在する。北茂安町の中央部を南流する通瀬川の東岸、標高3.5~3.8mの平担な沖積地に立地する。付近には中世の集落跡である座主野遺跡・西大島遺跡が所在しており、当地区においても中世の集落跡の存在が予測された。

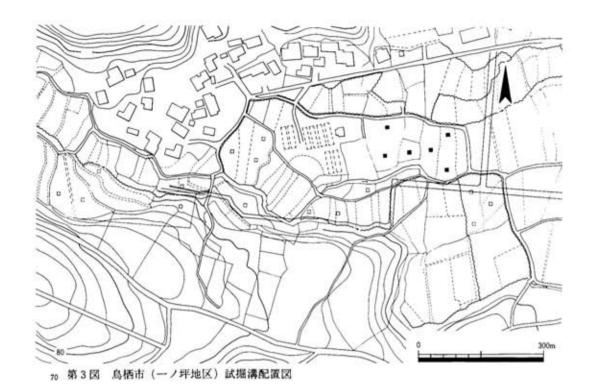
調査は工事予定地27 ha のうち、水路予定地と微高地に29の試掘溝を設けて行った。その結果、遺構・遺物は検出されなかった。

北茂安西部地区は北茂安町大字中津隈に所在する。北茂安町の西部を南流する切通川の東岸、牛飯集落の南の標高4.0~6.9mの沖積地に立地する。本地区の北側の丘陵上には、弥生~歴史時代の墳墓・集落跡である宝満谷遺跡をはじめ、三浦遺跡・干飯遺跡等多くの遺跡があり、当地区においても、各時代に係る遺構・遺物の検出が予測された。

調査は工事予定地28 ha のうち、水路予定地に40の試掘溝を設けて行った。その結果、干飯 集落から南に舌状に延びる微高地の縁辺にあたる試掘溝から、溝跡・小穴等の遺構や土師器・ 瓦器片等の包含層が検出された。遺構は表土下約30~40cmの黄褐色粘質土に掘り込まれていた。 圃場整備地区内で約5,500㎡の範囲に平安~鎌倉・室町時代にかけての集落跡の存在が予測さ れる。

(3) 三根町(三根東工区·三根西第I工区、第5図)

三根東工区は、三根町大字西島の約39 ha について行った。この地区は佐賀平野の東端、標高3~4mの低平な沖積平野に位置している。調査区域には、佐賀平野でも代表される弥生時



第4回 北茂安町(北茂安西部地区)試掘溝配置図

代の貝塚の一つ、本文貝塚が所在する。本分貝塚は、昭和28年・昭和56年にそれぞれ発掘調査が実施され、厚さ40cmのカキを中心とした貝層から壺・甕・高杯・筒形器台などの弥生中期土器や、イノシシ・シカ・ネズミなどの獣骨が出土した。

確認調査は、水路予定部分と調査区中央の微高地について138ヶ所の試掘溝を設けた。この結果、調査区西側の本分神社北側の水路予定部分から弥生時代の柱穴・土壙を、又調査区中央の微高地とその周囲からは、弥生時代~中世にかけての柱穴・土壙を、さらに調査区東側のは、水川近くからは中世の土壙を検出した。圃場整備事業では集落に接して新しく水路が造られないため、今回の調査では貝塚は検出されなかったが、本分集落の周囲、特に南側には弥生時代~中世の遺構が密に分布している。

三根西第 I 工区は、三根町大字寄入の約13 ha について行った。この地区は井柳川の東側、標高 3 m程の沖積平野に位置している。調査区の南側には古代~中世の集落跡である 直 代遺跡があり、中世集落の所在が考えられた。

調査は水路予定部分に34ヶ所の試掘溝を設けたが、遺構・遺物とも検出されなかった。

(4) 三田川町(佐賀東部地区三田川工区)

三田川工区は、三田川町大字箱川に所在する。由手川の西側標高3.6~4.7mの平担な沖積平野上に立地する。地区の西方には、弥生時代~室町時代の集落跡で越州窯・陶磁片・緑釉陶器・木製馬鞍・青銅製箸等を含む豊富な遺物が出土した下中杖遺跡が存在する。また当地区一帯には条里的地割もよく遺存しており、古代~中世に係わる遺構・遺物の存在が予測された。調査は工事予定地区20 ha のうち、水路予定地に約20の試掘溝を設けて行った。その結果、遺構・遺物は検出されなかった。

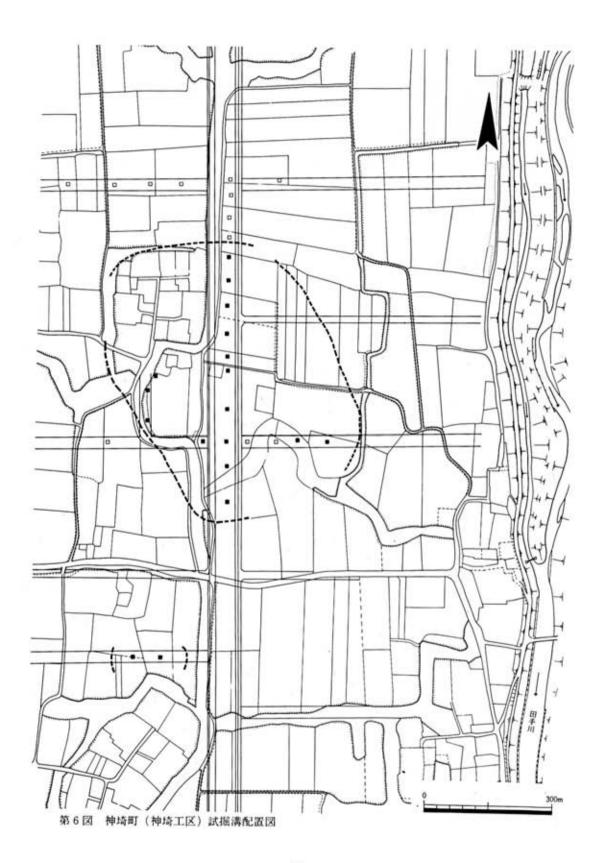
(5) 神埼町(佐賀東部地区神埼工区、第6図)

神埼工区は、神埼町大字茶幅に所在する。馬場川と田手川にはさまれた標高約3~4 mの低平な沖積地上に立地する。当地区内には弥生時代の貝塚として知られる荒壑首貝塚・森の木貝塚、古代~中世の遺物散布地である蔵戸遺跡が存在する。

調査は掘削機を用い、水路予定地を中心に約250の試掘溝を設けて行った。その結果、荒堅 目集落の東南側に設けた13ヶ所の試掘溝において、地表下約15~20cmで黒色土の包含層が確認 され、その中から弥生土器・土師器・少量のカキ殻等が出土した。約40,000㎡の広がりを持つ 弥生時代~室町時代にいたる集落跡の存在が予想される。

(6) 千代田町(佐賀東部地区千代田工区、第7図)

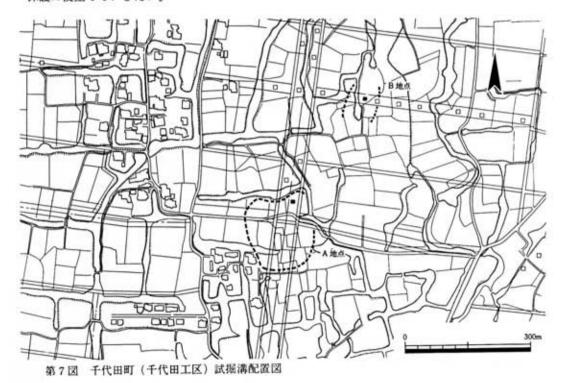




千代田工区は、千代田町北西部の千代田町大字姉・黒井・直鳥の約100 ha について確認調査を実施した。この地区は佐賀平野中央、城原川・中地江川にはさまれた標高 5 m 前後の平担な沖積平野に位置する。この地区には姉貝塚・下黒井貝塚など弥生時代の貝塚・遺跡が点在し、調査対象地にもこれらの周知の遺跡が存在していた。

調査は水路予定地を中心に136ヶ所の試掘溝を設けて行った。その結果、昭和58年度に発掘 調査を実施した姉貝塚の北側部分(No. A)地点、その北側の(No. B)地点の2ヶ所で遺跡 の存在を確認した。NoA地点では、表土下約0.6~1 mで遺構が確認された。遺構は柱穴・井 戸跡等が確認されたほか、弥生時代の包含層も検出された。この地点の道を隔ててすぐ南側に は姉貝塚が存在し、またこの地点の北側からは遺構が確認されないことから、姉貝塚の北限に あたると考えられる。NoB地点は約30cmの厚さをもつ表土層の直下で弥生時代の溝跡1条が確 認された。この付近では古くから石鏃・石斧・土器類が多数表採されており、遺跡が広い範囲 に分布していることが想像される。

以上のように今回の調査で2ヶ所より遺跡の存在が確認された。これとともに姉貝塚・下黒井貝塚・黒井八本松遺跡等の遺跡の範囲を推定する上で貴重な資料を得ることができた。今後の確認調査の結果も含めて、これらの遺跡の広がりをできるだけ正確に把握し、今後の文化財保護に役立てていきたい。



2. 佐賀西部地区の調査



- 1、佐賀市 (蓮池地区)
- 2、 (嘉瀬地区)
- 3、諸富町(大堂地区)
- 4、大和町(川上南部第1地区) ①、上大津遺跡

- 6、小城町(晴田中部地区) ③、吉富遺跡
- 7、多久市(多久東部地区) ④、楢田三本松遺跡

5、大和町 (川上南部第2地区) ②、徳富権現堂遺跡

第8図 佐賀西部地区周辺地形図

(1) 佐賀市 (嘉瀬地区·蓮池地区)

嘉瀬地区は、佐賀市嘉瀬町中原に所在する。佐賀市の南西部、嘉瀬川下流東岸の平担な沖積地上に立地する。付近には中・近世期の遺跡である十五遺跡・中原遺跡等が存在する。

調査は40 ha の対象地のうち、水路予定地の調査を実施した。当初は掘削機による坪掘りを 計画していたが、道路事情により掘削機運搬が不可能となったため、その大半を人力により試 掘溝を設定した。その結果、遺構・遺物共に全く検出できなかった。

蓮池地区は、佐賀市蓮池町見島に所在する。佐賀市の南東部、蛇行する佐賀江川に囲まれた標高3~4mの水田部に立地する。当地区の北東には、弥生時代及び中世の遺物散布地である小松遺跡が、又佐賀江川をはさんで西岸の諸富町には小田城跡が存在する。

北名・大橋・小松の合計36 ha の対象地のうち水路予定地の調査を実施した。掘削機により 試掘溝を40ヶ所に設定した結果、土器片が少量出土したのみで遺構は全く検出できなかった。

(2) 諸富町(佐賀東部地区諸富工区、第9図)

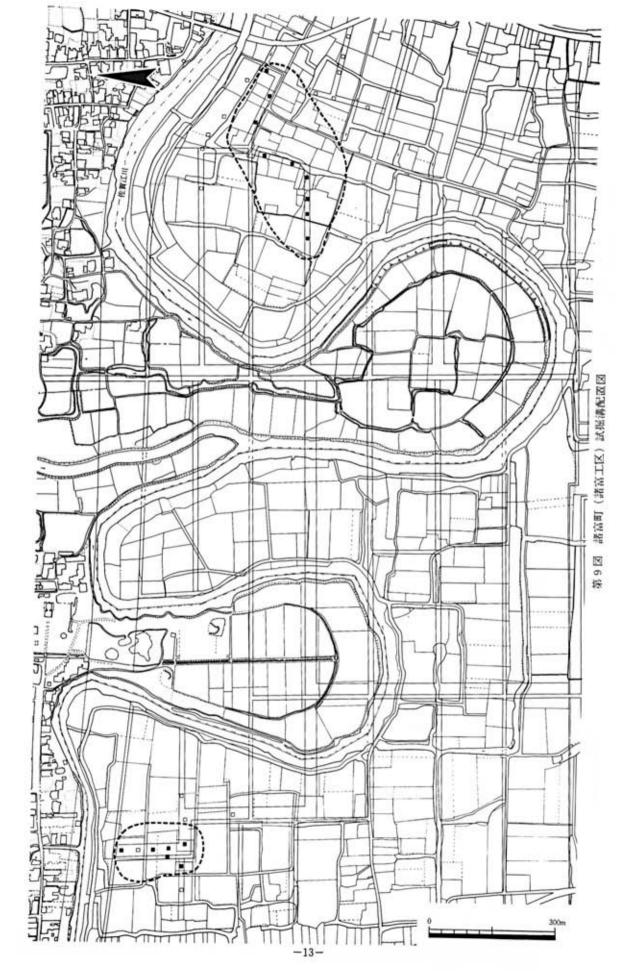
諸富工区は諸富町大字大堂に所在する。筑後川の支流である佐賀江川が諸富町北部で大きく 蛇行する部分の南岸の平担な沖積地上に立地する。当地区の北部には中世の遺跡である村中角 遺跡・陣内遺跡が含まれ、中・近世の遺跡の存在が予測された。

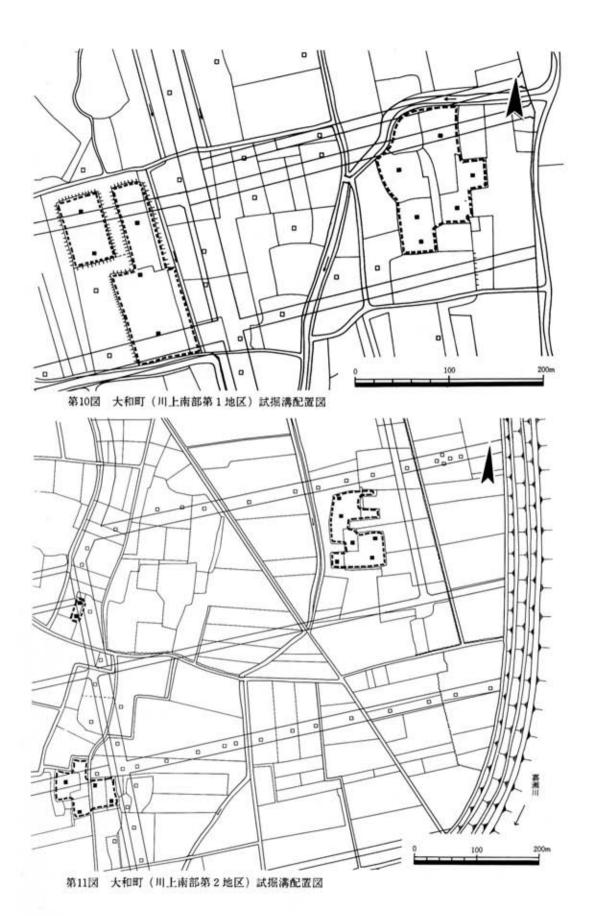
調査は水路予定地部分に120の試掘溝を設けて行った。その結果2ヶ所で遺跡の存在が確認された。東の大堂では9ヶ所の試掘溝から弥生時代終末期のものと思われる井戸跡・溝跡と中世の井戸跡・溝跡が地表下約20~40cmの深さで確認された。約30,000㎡の拡がりを持つ遺跡の存在が予測される。西の加与丁・では9ヶ所の試掘溝より近世の井戸跡・住居跡・溝跡が、地表下約20~30cmの深さで確認され土師器等の遺物が出土した。現在の加与丁集落を中心に約12,000㎡の拡がりを持つ遺跡の存在が予測される。

(3) 大和町 (川上南部第1地区・川上南部第2地区,第10・11図)

川上南部第1地区は、大和町大字久留間に所在する。山王川、芦刈水道、主要地方道小城一一北茂安線に囲まれた、標高9~14mの水田部に立地する。 脊振山系から南に延びる丘陵上には古代~近代に至る多くの遺跡が密集しているが、当地区にも弥生時代~室町時代の遺跡として知られている山王道遺跡が含まれており、周辺にも行者遺跡・今古賀遺跡等多くの遺跡が存在し、弥生時代~鎌倉・室町時代に係わる集落跡等に関する遺構・遺物等が検出されることが予想された。

調査は工事予定地区26 ha のうち、水路および削平予定部分に155の試掘溝を設定して実施 した。その結果、地区南西部に設けた5ヶ所の試掘溝、地区南東部の微高地上に設けた6ヶ所 の試掘溝で、柱穴・溝跡等の遺構が検出され、弥生土器等が出土した。遺構は地表下約30~80cm





の地山に掘り込まれており、その上を黒色土が覆っていた。各々の部分に弥生時代集落の存在 が予想される。

川上南部第2地区は、大和町大字池ノ上に所在する。嘉瀬川と平川に挟まれた標高約5~6mの水田部に立地する。当地区の北部には、弥生時代~室町時代の遺物散布地である池上二本松遺跡・佐保遺跡をはじめ多くの遺跡が知られており、各時代に係わる遺構・遺物の存在が予測された。

調査は工事予定地27 ha のうち、水路および削平予定部分に74の試掘溝を設けて実施した。 その結果、地区中央部と北東部に設けた約20ヶ所の試掘溝より、柱穴・土壙等の遺構が検出され、弥生土器・土師器等の遺物が出土した。遺構は地表下約30~150cmの地山に掘り込んでいた。 各々の部分で弥生時代を中心とする集落跡の存在が予想される。

(4) 小城町 (晴田中部地区)

請由中部地区は、小城町大字施門面に所在する。牛津川の支流晴気川が天山山系から平野部へ流れ出る谷口の部分に立地する。当地区の北側には古墳時代~奈良・平安時代の遺物散布地である中蓋・遺跡、南には弥生時代~古墳時代の墳墓・遺物散布地である寺浦古墳群・畑田三本松遺跡・宿遺跡が存在する。

調査は、晴田中部地区 5 ha のうち削平される部分を中心に約40の試掘溝を設けて実施した。 その結果、磨耗した土器片数点を検出したが、明確な遺構は検出されなかった。

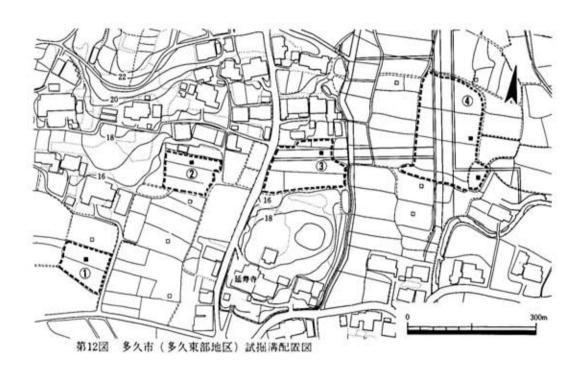
(5) 多久市(多久東部地区、第12図)

多久東部地区は、多久市南多久町大字下多久の中小路・庄・上午町の三地区にかかる20 haについて確認調査を実施した。調査対象地は天山山系から南に延びた台地の先端、標高13 ~26mの緩傾斜地で水田に利用されている。

この地区の周辺は遺跡の分布密度が高く、南西部の延寿寺境内および墓地は、鎌倉時代から 多久を支配した多久氏の居館跡と伝えられ、土塁や堀割の遺構が残り、青磁碗などが出土して いる。西側の中小路集落には弥生時代中期の中小路遺跡や埴輪片が出土した径20mを越す中小 路古墳が存在する。南側の昭和58年度工事区では工事中にカメ棺墓一基分と白磁碗一個が発見 されている。

調査は対象地のほぼ全域に102ヶ所の試掘を予定したが、たび重なる今出川の氾濫や庄川の 氾濫で河原礫が数十cmも堆積した地点の数を減らし、最終的に71ヶ所を試掘した。市道中小路 ~上田町線北側および南側の東半分は河原石や砂礫の堆積層で遺構は確認できなかった。また、 対象地の北西部は大正時代に耕地整理が実施され、黒曜石の剝片などが出土したが遺構は確認 できなかった。 遺物や遺構が耕作土下で検出できたのは次の4ヶ所である。延寿寺西側の標高12~13mの地点で黄褐色粘土層の地山からサヌカイトの剝片が出土し、旧石器~縄文時代の包含層の存在が予想される。その地点から北東に80m、標高14.5~15mの水田で黒色粘質土層から土師器片数点が出土。延寿寺墓地の北側には土塁や堀割が残り、隣接する北側の水田で茶褐色の直線状の遺構を確認したが遺物は出土せず、性格は明らかではないが、土塁や堀割との関係から中世初期以降のものであろう。延寿寺墓地から北東に150m、標高15~16mの周囲よりやや小高い水田で弥生土器片を含む黒褐色粘質土の遺構を確認した。

以上の結果、多久東部地区において4ヶ所の遺物包含層および弥生~中世の遺構が確認され、合計の面積は8,200㎡(1.1,000㎡、2.1,100㎡、3.2,000㎡、4.4,100㎡)となった。

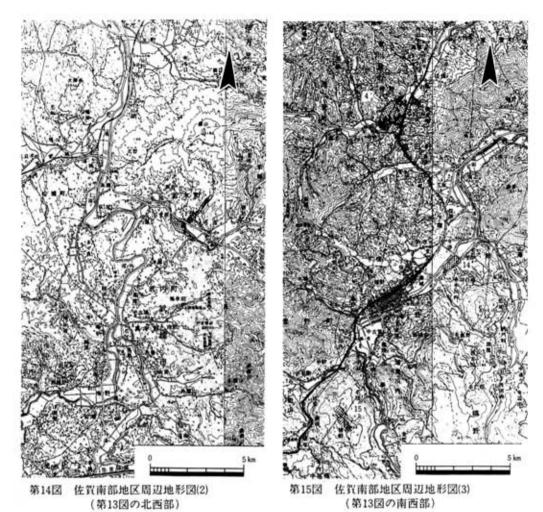


3. 佐賀南部地区の調査



- 2. (橋地区)
- * (本部地区)
- / (川登地区)
- 5、北方町(橋下地区)
- 8、白石町(白石西第2期地区) 14、嬉野町(下野地区)
- 10,
- 11、有明町 (有明第3期地区)
- (下掛橋地区) 12、塩田町(南志田地区)
- 第13図 佐賀南部地区周辺地形図(1)

- 9、 (白石西第3期地区) 15、 (嬉野西部地区)
 - % (白石西第4期地区) 16、太良町(糸岐川北地区)
 - ①、 庄の前遺跡
 - ②、東宮裾遺跡群
 - ③、牛間田遺跡



(1) 武雄市 (本部地区・川登地区・橘地区・武雄南部地区、第16図)

本部地区は武雄市の南西部、若木町本部に所在する。松浦川の支流川吉川(御所川)が作った谷部に拓かれた標高40~60mの水田部に立地する。地区の北と東の2つの丘陵上には、縄文時代の遺物散布地として知られている探光遺跡と清水ノ又遺跡が存在しており、縄文時代の遺構・遺物の存在が予測された。

調査は工事予定地区12 ha に、74の試掘溝を設けて行った。その結果、遺構・遺物は検出されなかった。

川登地区は、武雄市東川登町、新野に所在する。六角川上流の潮見川によって開かれた谷水田部に立地する。地区の南西には旧石器時代および古代~中世の遺物散布地である構遺跡・ 溝口遺跡等が所在する。

調査は、川登地区28 ha のうち削平を受ける部分を中心に約50の試掘溝を設けた。その結果、遺構・遺物は検出されなかった。

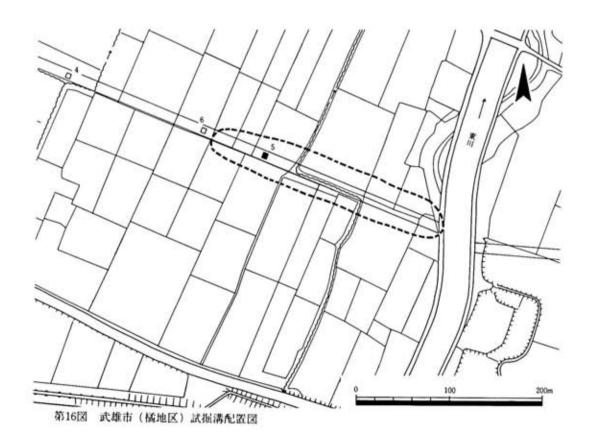
橘地区は武雄市橋町片白に所在する。杵島山系の西麓部と六角川の上流である潮見川には さまれた水田部で、標高は4~6mである。杵島山系の西麓部一帯は南北に弥生~古墳時代の 遺跡が多く見られる。今回の調査対象地に東接して釈迦寺遺跡・片白遺跡等があるため、調査 前には弥生時代の遺構・遺物の存在が予想された。

調査は掘削機により一定間隔で合計34ヶ所の試掘溝を設けて実施した。基本的な土層は耕作 土・茶褐色粘土・灰褐色粘土・青灰色粘土であり、青灰色粘土層上面までの深さは70~100cm を測る。試掘溝は南から北へ入れていったが、番号5・17・33で遺構が、9・11・12・23・24・ 32で弥生土器・土師器等の土器片が出土した。

5 では表土下70cmの黄褐色土で1 基小児カメ棺らしき遺構を検出した。カメ棺は胴部の一部 しか残存していなかった。付近に入れた試掘溝6 からは遺構の検出はなかったため、その広が りは不明である。

17からは、表土下70~80cmの青灰色粘土層に切り込んでいる溝状の遺構を検出した。溝は南 北方向で埋土は黒色を呈し、甕か壺らしい厚手の土器片を包含していた。

33からは、表土下100cmの青灰色粘土層に切り込んでいる溝状の遺構を検出した。溝は北西 一南東方向で幅0.9mである。弥生土器か土師器らしき土器片が出土した。



以上のように橘地区では3ヶ所の試掘溝で、カメ棺・溝状の遺構が検出された。しかし、水 路部分のみの調査であったためその広がりについては不明である。遺構の時代については、出 土土器がいずれも極小片のため弥生土器か土師器か判別し難いが、須恵器が出土していないこ とや、周辺の遺跡等を考慮すると、弥生時代の可能性が強いと思われる。

武雄南部地区は、同じく橘町片白に所在する。六角川がゆるやかに蛇行する縁辺の広域な水田部にあたる。標高は約4~5 mで殆んど起状はない。満潮時には、この付近まで六角川を遡って上潮があり、かつては水害の常磐地帯であった。

調査は掘削機により、南部地区25 ha のうち水路予定地に35の試掘溝を設けて行った。現地表面下の土層はほぼ一定しており、表土・床土・黄灰色粘土・青灰色粘土を基本的な層序とする。深さは-50~-100cmである。土層からは、河川の沖積作用による、いわゆる、ガタ、であったことが窺われ、現在でも地盤がゆるい。遺構は全く認められなかった。また出土遺物も、近世陶磁器片が数点みられた程度で、調査範囲に遺跡の存在は考えにくい状態であった。

(2) 北方町(橋下地区・下掛橋地区)

機下地区は、北方町大字背原に所在する。東部と西部の地区に分けられる。東部地区は勇 益山の北方、椛島山の東に隣接した標高約4mの平野上に立地する。この地区は弥生時代と 中世遺物散布地である天神面遺跡・長町遺跡の範囲にあたり、また西の椛島山には内行花文 鏡・勾玉・管玉・素環頭刀子を副葬した石棺等の出土で知られる椛島山遺跡が所在する。西部 地区は鳴瀬山の北方、六角川の南に位置し、武雄市と隣接する。東には中世の遺物散布地であ る貝良木遺跡が存在する。

調査は、橋下地区24 ha のうち水路予定地を中心に、東の地区に51ヶ所、西の地区に24ヶ所、 計75ヶ所の試掘溝を設けて行った。その結果、遺構・遺物は検出されなかった。

下掛橋地区は北方町大字志久に所在する。国鉄佐世保線と六角川に挟まれた標高約4mの水田部に立地する。この地区の北方には、弥生時代~室町時代の遺物散布地である上掛橋遺跡・ 天神鬼遺跡・野副遺跡や、南北朝~戦国期の城跡と思われる志久城が存在する。

調査は、下掛橋地区 6 ha のうち水路予定地を中心に約20の試掘溝を設けて行った。その結果、 遺構・遺物は検出されなかった。

(3) 大町町 (大町地区)

大町地区(下潟)は大町町大字福盛に所在する。六角川の北岸、蛇行によって囲まれた標高 2.1~2.4mの平担な沖積地上に立地する。北方の丘陵には弥生~歴史時代の遺物散布地である 福母一本松遺跡・慈雲山遺跡が存在する。

調査は工事予定地10 ha のうち、水路予定地に17の試掘溝を設けて実施した。その結果、遺

構・遺物は検出されなかった。土層は、表土下約10~20cmで灰白色粘質土になるが、この層は 植物遺体を多く含み、潟地であったと思われる。

(4) 白石町(白石西第2地区・白石西第3地区・白石西第4地区)

白石西第2 (西郷) 地区は、白石町大字東郷に所在する。六角川の南岸の標高約3 mの沖積平野上に立地する。地区の西側には古代~中世の集落跡である今泉遺跡が所在する。

調査は、白石西第2地区18 ha のうち水路予定地部分を中心に27ヶ所の試掘溝を設けて行った。その結果、遺構・遺物は検出されなかった。

白石西第3 (大井) 地区は、白石町大字横手に所在する。白石町の南部、長崎本線の西に接 する標高1~2 mの低平な沖積平野上に立地する。この付近の微高地上には中世〜近世の遺跡 が点在する。

調査は、白石西第3地区26 ha のうち水路予定地部分に38ヶ所の試掘溝を設けて行った。その結果、遺構・遺物は検出されなかった。

白石西第4 (小島) 地区は、白石町大字堤・湯崎に所在する。杵島山系から東へ延びる2つの丘陵にはさまれた標高2.5~3mの平担な平野上に立地する。この2つの丘陵上には弥生・古墳時代の遺跡を中心に近現代までの多くの遺跡が密集しており、またこの地区の南部は、弥生時代~江戸時代の遺跡である堤遺跡や小島遺跡の範囲に当たり、又西方には小島城跡が存在する。

調査は白石西第4地区30 ha のうち、水路予定地部分を中心に約70ヶ所の試掘溝を設けて行った。その結果、遺構・遺物は検出されなかった。

(5) 有明町(有明第3工区·白石広域農道、第17図)

有明町大字辺笛・笛野上の約43 ha について行った。この地区は白石平野の西端、稲佐神社 参道の南側に広がる標高 2 ~ 3 mの低平な沖積平野である。この地域には、古代~中世の辺田 三本松遺跡や、除外地とはなっているものの中世の島津城跡があり、これらに関係する遺構の 存在が考えられた。

調査は水路予定地と広域農道予定地について155ヶ所の試掘溝を設けて実施した。その結果、 調査区北西端、広域農道予定地の標高10m程の丘に設けた4ヶ所の試掘溝から不定形の掘り込みを確認し、この中から中世~近世の土師器片が出土した。このことからこの丘全体に中世~ 近世の遺構が所在すると考えられる。又、この丘の南側200mの支線水路予定地からも楕円形 の土壙を検出しており、この部分にも小範囲に中世~近世の遺構が広がっていると考えられる。

(6) 塩田町(塩田地区·南志田地区)

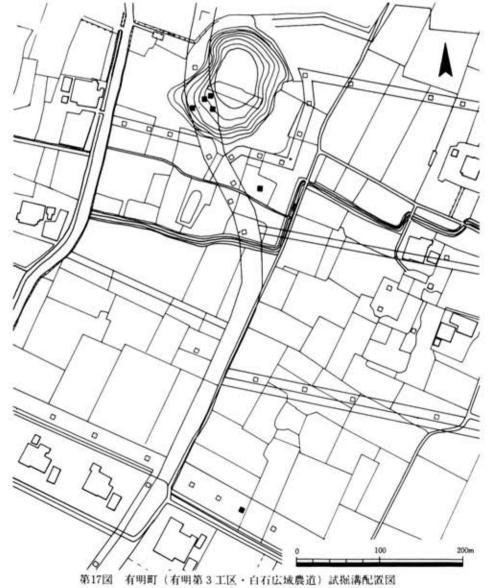
塩田地区は、塩田町大字谷所に所在する。標高109mの独立丘陵と、その丘陵を西から北

へ蛇行する鹿島川にはさまれた沖積平野上に立地する。独立丘陵の西端には、城跡や下童経塚 が存在する。

調査は下童18 ha と鳥坂 1 ha 余りについて、水路予定地および削平される畑地部分に23ヶ所の試掘溝を設けて行った。その結果、陶器片数点を確認したが遺構は検出されなかった。なお、鳥坂地区内には板碑が存在する。

南志田地区は、塩田町大字久間に所在する。杵島山系の西端、南側に舌状に延びる丘陵から 谷の斜面にかけての棚田状の水田部に立地する。丘陵の先端には縄文~古墳時代の遺物散布地 である南志田遺跡が存在する。

調査は、工事予定地区 2 ha について削平される部分を中心に35の試掘溝を設けて行った。 その結果、近世陶磁器数点が出土したが、遺構は検出されなかった。



(7) 槙野町 (下野地区·槙野西部地区)

下野地区は嬉野町大字下野の約6.1 ha について行った。この地区は嬉野町の北西部、南西から北東へと流下する塩田川により形成された、標高45m程の段丘上に立地する。調査対象地の南側丘陵上には岩屋城跡(中世)が、又北側には井手川内三本椎遺跡(中世の遺物散布地)があり、調査区にも中世の遺構が存在すると考えられた。

調査は、削平部分や水路予定部分を中心に52ヶ所の試掘溝を設けて行った。その結果、調査対象地は塩田川の氾濫地と見られ、砂礫層が広がっている所が多く、遺構・遺物は検出されなかった。

嬉野西部(陣野)地区は嬉野町大字岩屋川内の約7 haについて行った。この地区は嬉野町 の西部、標高350~400mのなだらかな丘陵上に在り、一面に茶畑が広がっている。調査予定 地東側には陣野北遺跡があり陣野堤周囲には黒曜石片が散布しており、調査区にも縄文時代 の遺跡の存在が考えられた。

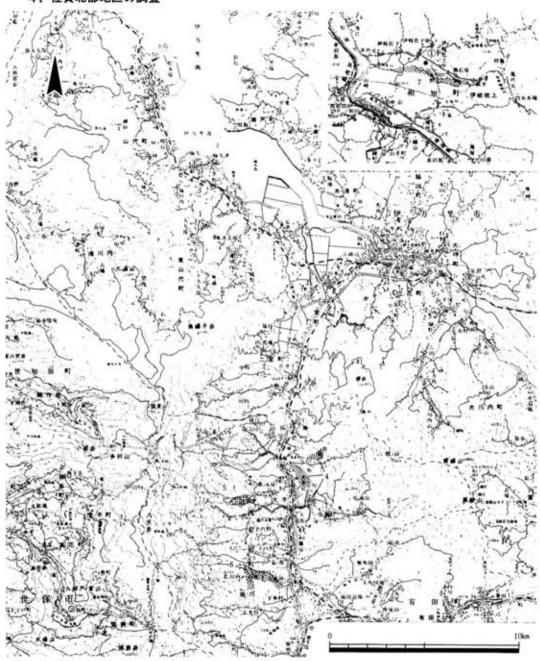
調査は、工事予定地 5 ha に45ヶ所の試掘溝を設け調査にあたったが、表土下には褐色ローム層が堆積している所も多かったが、遺構・遺物とも検出されなかった。

(8) 太良町(糸岐川北地区)

糸岐川北地区は、太良町大字糸岐に所在する。多良山系から東に延びる丘陵に挟まれた谷 水田部に立地する。地区の東側には、曲輪・空掘りのよく残った中世城跡の八幡城跡があり、 又その周辺は旧石器時代の遺物散布地である。

調査は、糸岐川北地区13 ha のうち掘削を受ける水路予定地と、削平される水田部について、 約160の試掘溝を設けた。その結果、遺構・遺物は確認されなかった。

4. 佐賀北部地区の調査



- 1、伊万里市(東山代東部地区)
- 4、西有田町 (黒岩地区)
- 7、相知町 (伊岐佐地区)

- 2、 (東山代西部地区)
- 5、 * (大山地区)
- ①、伊岐佐中原遺跡

- 3、 《 (天神搦地区)
- 6、 (曲川地区)

第18团 佐賀北部地区周辺地形図

(1) 伊万里市(天神搦地区・東山代東部地区・東山代西部地区・腰岳農免道路、第19・20・21図)

天神 第 地区は、伊万里市東山代町大字天神・大字浦川内の約2.8 ha について実施した。この地区は、天神集落の西方約 1 kmの所に位置している。この地区はそのほとんどが近世以降の干拓地である。この地区に隣接して、弥生時代後期の寺田貝塚が位置している。また伝承によると、現在宅地になっている西方の丘陵上には寺院があったといわれている。

調査は、圃場整備予定地内に22ヶ所の試掘溝を設け実施した。その結果、3ヶ所の試掘溝で中世の輸入陶磁器や木製品を出土する遺物包含層を約600㎡の広さにわたって確認した。このことから、天神搦地区の西南地域には、室町時代に属する遺跡が存在するものと考えられる。東山代東部地区は、伊万里市東山代町大字脇野・大字浦川内にわたる約3 haの地域について実施した。この地区は、有田川川口の西方1.5kmにあたり、国見山系の北端に位置する鳥帽子岳(597m)から北方にのびた低丘陵地域で、南から北にむかって小規模な棚田が広がっている。この地区に隣接して、県史跡で縄文時代を主体とする白蛇山岩陰遺跡や、弥生後期の岩戸山貝塚などが存在する。

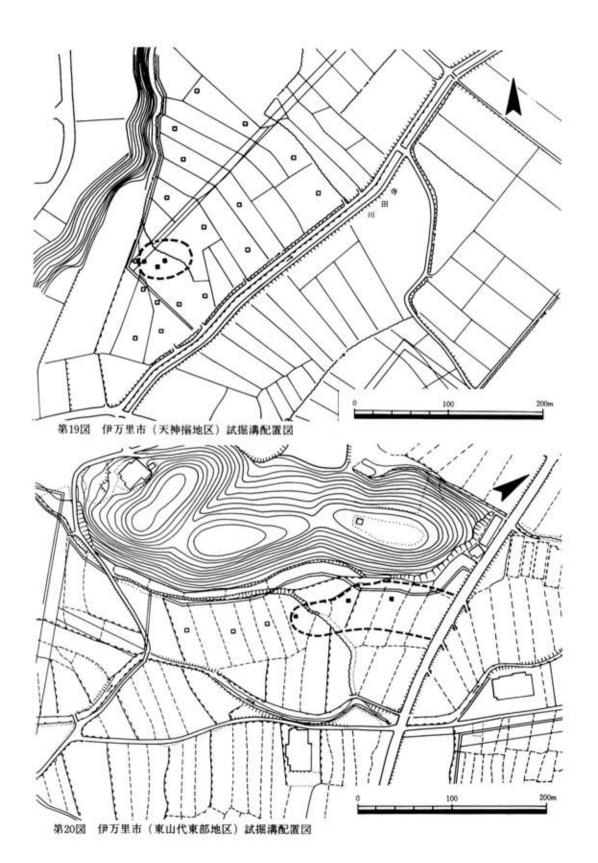
調査は、圃場整備予定地内に44ヶ所の試掘溝を設けて実施した。その結果、3ヶ所の試掘 溝で、弥生後期から中世にかけての遺物を出土する包含層を約1,800㎡の広さにわたって確認 した。このことから、脇野集落の北西地域に弥生時代から中世に関連する遺跡が存在するも のと考えられる。

東山代西部地区は、伊万里市東山代町大字大久保の約5 ha について実施した。この地区は、 鳥帽子岳から北西に延びる丘陵の北東面に出入する谷部に存在する大久保集落の北部に位置 する。地区の西側には、縄文時代の遺物散布地である横林遺跡が、またその南には縄文~弥 生時代の遺物散布地である平野遺跡等が所在する。

調査は、圃場整備予定地区内に26の試掘溝を設けて実施した。その結果、遺構・遺物は検 出されなかった。

腰岳地区は、伊万里市富士町から、二里町古子に至る3.4kmの農面道路の路線のうち、59・60年度工事対象区1.6km (9,600㎡) にわたって実施した。この地区は、黒曜石の原産地として著名な標高487mの腰岳の北西麓域で、この地域には旧石器時代から縄文・弥生の各時代に、石器素材として多用された黒曜石が多量に散布している。また計画路線途上には、昭和36年に日本考古学協会西九州総合調査特別委員会・明治大学により調査された鈴桶遺跡が隣接している。なおこの地区の南西1kmには高岸石棺墓遺跡が、北1kmには平沢良遺跡・杢路寺前方後円墳などが所在している。

調査は、路線予定地内に26ヶ所の試掘溝を設けて実施した。その結果、9ヶ所の試掘溝で 夥しい黒曜石の剝片・石刃・石核を検出した。このことから、腰岳地区農免道路の路線内に は縄文時代の石器製作遺跡が存在するものと考えられる。

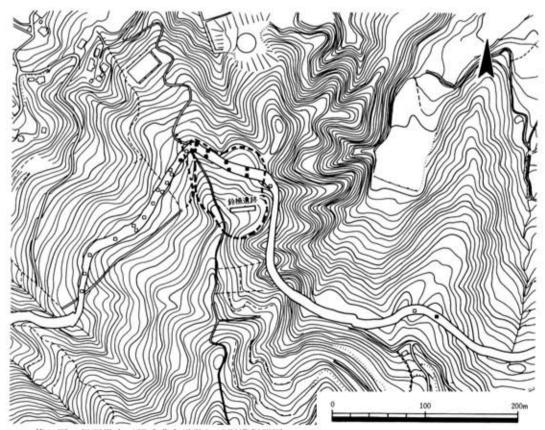


(2) 西有田町 (大山地区・曲川地区・黒岩地区)

大山地区は、西有田町大字大木に所在する。この地区は国道202号線を境に東と西の地区に分けられる。東の地区は有田川によって作られた谷平野部に立地する。当地区の東方の小丘陵の麓には旧石器〜縄文時代の遺物散布地である福谷遺跡・前平遺跡が、また西方の低丘陵上には縄文時代の下野山遺跡・平遺跡が存在する。西の地区は、国見山系のうち多利山と八天岳から延びる2つの丘陵にはさまれた扇状地上に立地する。地区の南方を有田川の支流浄源寺川が東西に流れるが、その支流である桑ノ木原川の南の標高約70〜120 m のなだらかな傾斜をもつ水田部である。地区の東部には町指定史跡で、縄文時代の貯蔵穴群として知られる坂ノ下遺跡のほか、縄文時代の遺物散布地である開副遺跡・立木原遺跡が所在した。

調査は、工事予定地計25 ha に250ヶ所の試掘溝を設けて行った。その結果、黒曜石片・近世陶磁器片等が出土したが、遺構は検出されなかった。

曲川地区は、西有田町大字曲川に所在する。国見山系の南部から東に延びる丘陵上の標高 約60~90mの水田部に立地する。この地区の北側には縄文時代の遺物散布地である中通遺跡 や神ノ前遺跡が、又南側には同じく前原遺跡が存在する。又当地区の西側にある堤の下には



第21図 伊万里市(腰岳農免道路)試掘溝配置図

同じく縄文時代の中谷遺跡があると考えられていた。

調査は、工事予定地28 ha に約200ヶ所の試掘溝を設けて行った。その結果、黒曜石片が出 土したが遺構は検出されなかった。

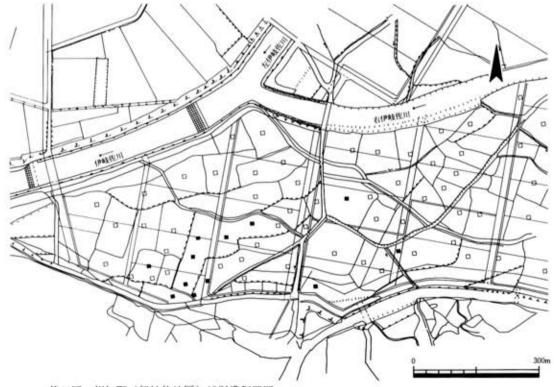
黒岩地区は、西有田町大字山谷の牧に所在する。腰岳から南西に延びる丘陵の南斜面の水田部に立地する。この地区の西側には縄文時代の遺物散布地である長円原遺跡や、鎌倉時代に松浦党の1つ 源 栄によって築かれたといわれる唐船城跡が存在する。

調査は、工事予定地 5 ha に28ヶ所の試掘溝を設けて行った。その結果、黒曜石片は出土したが、製品はなく、遺構も検出されなかった。

(3) 相知町(伊岐佐地区、第22図)

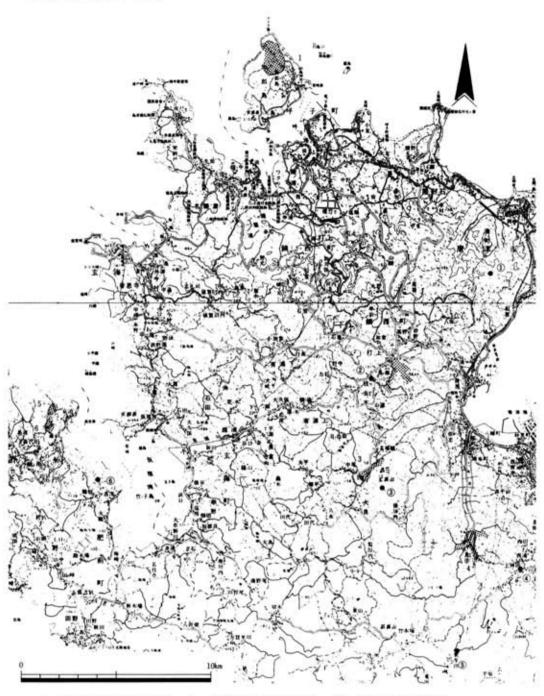
伊岐佐地区は相知町大字伊岐佐に所在する。伊岐佐川によって作られた河岸段丘上に立地 する。この地区の北には、縄文時代の遺物散布地である塩木遺跡や伊岐佐古墳群が所在する。

調査は右伊岐佐川の南岸18 ha について、160の試掘溝を設けて実施した。その結果、右伊 岐佐川と左伊岐佐川の合流地点付近に設けた13個の試掘溝より遺構・遺物が検出された。遺 構は小穴・土壙で、そのうちいくつかのものに鉄滓・焼土が認められた。遺物は、土師器・ 須恵器等が数片出土した。7,600㎡の範囲に平安時代~鎌倉時代の鉄関係生産遺跡の存在が考 えられる。



第22図 相知町(伊岐佐地区)試掘溝配置図

5. 佐賀上場地区の調査



- 1、呼子町 (加部島地区)
- 5、肥前町 (野稲畑地区) ③、後川内仲ノ谷遺跡
- 2、唐津市(馬ノ部地区) 6、 (通山地区)
- ④、西浦遺跡
- 3. 《 (名場越地区) ①、湊中野遺跡
- ⑤、菅牟田黒竜遺跡
- (見借地区)②、枝去木遺跡⑥、七ツ江遺跡

第23図 上場地区周辺地形図

IV. 埋没条里確認調査の内容

1. 調査の概要

佐賀県では、毎年1,500 ha 内外の農業基盤整備事業が行われているが、これに対し文化財保護担当部局からの対応は、主に各時代の集落跡・墳墓及び窯跡等の生産遺跡等の発掘調査・記録保存に追われ、土地に関する問題、特に条里制や荘園制については対応が遅れていた。その理由としては、後者の遺構規模が広大であること、その割に遺構密度が低いことなどがあげられる。しかし生活跡・集落跡等の個々の事象を、その基盤となった土地の問題を抜きにして考えることはできないであろう。

こうした基本的視点に立脚して、県文化課で条里制等の保存方法の検討を行い、その一つ の方法として埋没した条里遺構の確認調査を実施することにした。

周知のように佐賀県の条里制に関する問題は、その成立時期・範囲・施行技術・変遷等未 だ不明な点を数多く抱えている。ここで「埋没条里遺構」という場合の条里とは、いわゆる 碁盤目状の方格地割を総括したものを指し、その中には平安後期以来条理制にならって行わ れた条里的遺構も含めたものであると御理解願いたい。

調査対象地は、佐賀平野のうち比較的良好な状態で条里地割が残っている神埼郡神埼町・ 三田川町、杵島郡白石町・有明町の当該年度工事地区について実施した。初年度は、埋没条 里遺構とはどういうものかを目的に計9ヶ所の試掘溝を設定して行った。

なお、佐賀大学教育学部地理学教室の日野尚志先生には、計画当初から指導を仰ぎ、しば しば調査現場まで御足労を願った。また本報告書作成にあたっては、条里線復原図等の使用 を快く承諾していただき、又必要な助言をして下さった。ここに厚く御礼申し上げます。

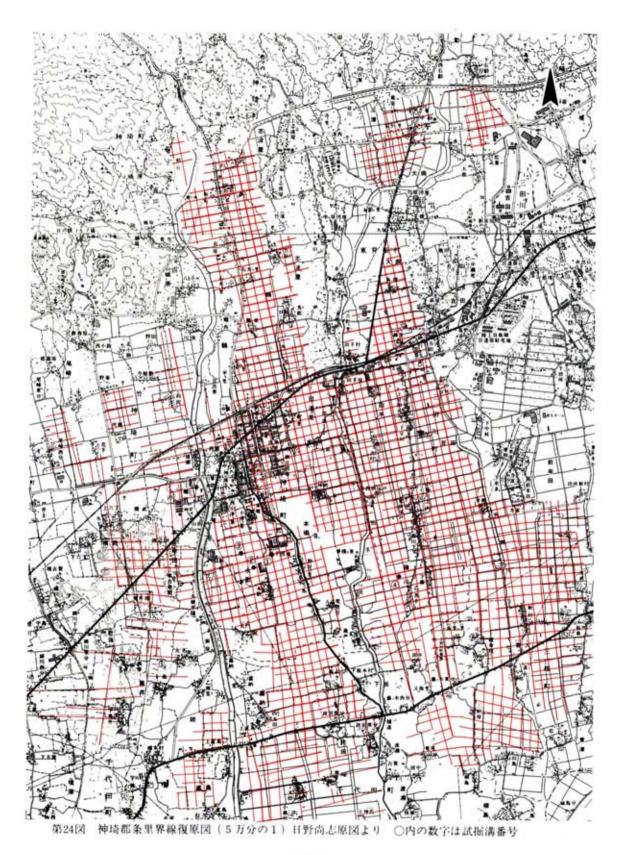
(なお条里線復原図(第24・27図)については、本報告書用に日野先生の原図から改めて 作り直したが、線引き上の責はすべて徳富が負うものとする。)

2. 調査の内容

(1) 神埼郡

神埼郡は佐賀平野の東部に位置する。脊振山地の南側に展開する沃野で、筑後川とその支流である城原川・田手川等によって形成された沖積平野である。山麓部を除けば、海抜10m以下の低平な平野が大部分を占める。

この地域では弥生時代前期から稲作が行われていたことが知られている。神埼町利田柳遺跡・川寄吉原遺跡・野田一本杉遺跡・三田川町田手一本黒木・二本黒木遺跡、千代田町詫田西分遺跡・姉貝塚等から、籾痕のある土器、鍬・鋤・エブリ等の木製品や石包丁等の農耕具が発見されており、現在も類例が増えつつある。なお弥生時代前~中期の海岸線は、牛津一



-31-

一佐賀――詫田――江見を結ぶ線と考えられている。後期になると、諸富町徳富や上大津からも集落跡が検出されており、陸地化がかなり進んでいたようである。

こうした稲作は、有力な豪族層の出現と合俟って進展改良され、条里制の施行を可能とする下地が生み出された。

周知の通り条里制は大化改新詔によって施行されたといわれているが、佐賀平野における 施行時期がどこまで遡れるかはこれからの研究成果に俟たねばならない。また弥生時代以降 の遺跡から東西・南北の方向性を持った溝跡が数多く検出されており、条里制の溝跡との関 連を検討する必要がある。

里界線の復原については、現広島修道大学教授米倉二郎先生や日野先生等によって行われている。また神埼郡内には現在も条里制の遺称が数多く残っており、又古文書・古絵図類に記載されたものも多く、日野先生等によって現在地への比定が試みられている。

神埼郡条里はその後神埼荘等の荘園に受け継がれたが、蒙古合戦恩賞地配分や田地坪付注 文等条里制の呼称によって記載されることが多く、また律令制崩壊後の新田開発も条里制に 倣って行われたようである。紙数の関係でこれ以上詳しく述べることはできないが、条里制 がその後の変遷過程において強い規制力を持ったことは確かで、それは現在も条里的地割が 神埼郡内に良好な状態で遺存していることでも知られる。また溝渠(堀・クリーク)との関 連も見逃すことのできない問題であろう。

① 神埼町

調査対象地は、神埼町大字永歌に所在する。田手川の支流、馬場川西岸の標高約3.3~3.8m (圃場整備事業に先立ち農林部で測量した1/1,000地図による。以下同じ)の水田部に立地 する。

第1試掘溝 (第25図) は野目ヶ里 6 ヶ坪と永歌里 1 ヶ坪に掛る里界線上に東西に設けたもので、正平廿二 (1367) 年正月十一日の増成譲状に。

「一、神崎庄内櫛田神宮寺免 賀崎郷長歌里一坪六段二杖」(修学院文書)

とあり、一坪内に少なくとも六段強の水田があったことが知られることから、試掘溝を設定 した。

調査は約57mの試掘溝を設けて行った。その結果、表土下約10~15cmで第2層があらわれたが、第2層は西から黄褐色粘質土——黄褐色粘質土+青灰色土——青灰色粘質土——黄褐色粘質土+青灰色砂質土と漸変しており、また2層中には中世土師器・輸入青磁小片が混じっていた。2層のこの状態は田手川の氾濫によるものではないかと思われる。なお2層上面には、南北方向の小溝跡が約10条見られた。

第2試掘溝は、永歌里3,坪と10,坪に掛る坪界線上に南北に設けたもので、正平廿四(1369) 年四月十日の藤原朝臣裁許状に、



第25図 埋没条里確認調査神埼地区第1·2·3 試掘溝位置図

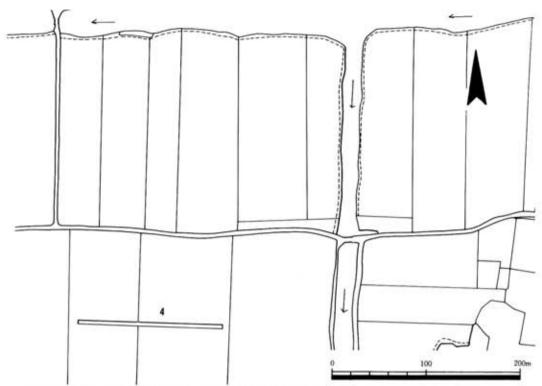
「肥前国神崎庄東妙寺雑掌定心与櫛田宮庄官小得善西法代子息光直相論、当庄賀崎郷長歌 里十坪田地一町一段事、」(東妙寺文書)

とあり、10,坪が水田であったことが知られる。

調査は $69\,\mathrm{m}$ の試掘溝を設けて行った。その結果、地表下約 $10-20\,\mathrm{cm}$ で黄褐色土の第 $2\,\mathrm{M}$ があらわれた。第 $2\,\mathrm{M}$ と面には、南北方向の幅 $40\,\mathrm{cm}$ 、深さ $2-3\,\mathrm{cm}$ の小溝跡が見られたが顕著なものではない。第 $2\,\mathrm{M}$ は $20-25\,\mathrm{cm}$ の厚さで、その下は灰黒色粘質土の第 $3\,\mathrm{M}$ になる。第 $3\,\mathrm{M}$ 個は厚さ約 $20\,\mathrm{cm}$ で、その下は灰色粘質土圏であった。この層は植物遺体を多く含み、この地が湿地であったことが推定されるが遺物は全く検出されず、時期を推定することはできなかった。

第3試掘溝は、小津里28,坪と33,坪の坪界線上に設けたもので、元享二 (1322) 年四月廿 七日の前対馬守某下知状案に、

「□□□次余残分質崎郷小津里廿八坪田□□杖、」(修学院文書) とあり、28,坪の一部が水田であったことが知られる。



第26図 埋没条里確認調査三田川地区第4試掘溝位置図

調査は21mの試掘溝を設けて行った。その結果、表土下約10~15cmで黄褐色土層があらわれた。この層の上面に、現在の地形上での坪界復原線にやや沿った位置に、幅65cm、深さ4~8cmの小溝跡が検出されたが顕著なものではなく、又遺物は出土していないが、埋土の状態から近世~近代のものと思われる。

② 三田川町

調査対象地は、三田川町大字箱川に所在する。田手川東岸、乙,馬手集落の西の標高3.2~ 3.3mの水田部に立地する。この地区に第4試掘溝を設けた。

第4試掘溝(第26図)は、乙,馬手ヶ里の範囲にあたるが、この里の北の里にある甲馬手里 あたりから条里地割上に変化が始まっており、当乙,馬手里は現在の地割上の推定復原で30の 坪しか存在しないことになる。この里については嘉曆三(1328)年五月十五日の光仏寄進状 写に、

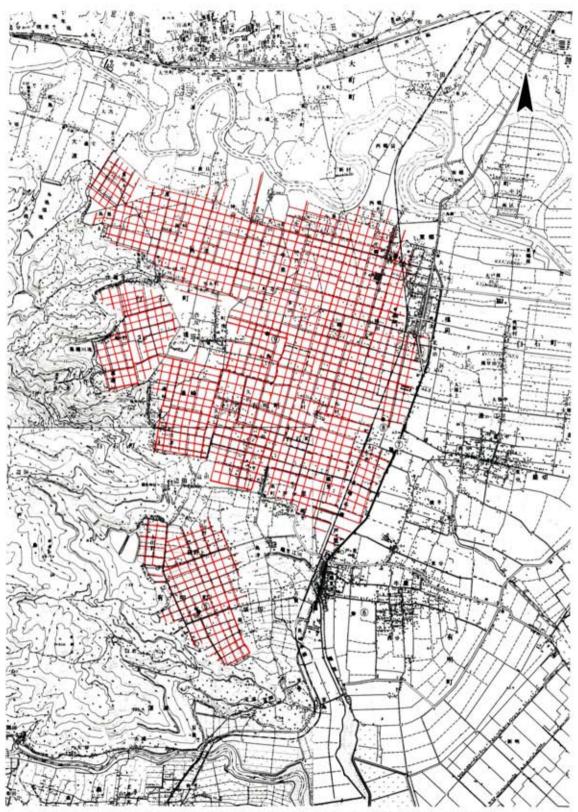
「をつのまてかり十八つほてんち一丁なり、」(東妙寺文書)

とあり、また建武二(1335)年六月の東妙・妙法両寺寺領坪付注文写に、

「中郷乙馬手里廿三坪一丁」(東妙寺文書)

とあることから、すでに鎌倉末期にはこの里が田地として開発されていたことがわかる。

調査は坪界線上に76mの試掘溝を東西に設けて行った。土層は概ね15~20cmの表土層、25~40cmの灰黒色土層(上部は酸化して黄褐色土)、10~20cmの暗黒色粘質土、灰色粘質土層と

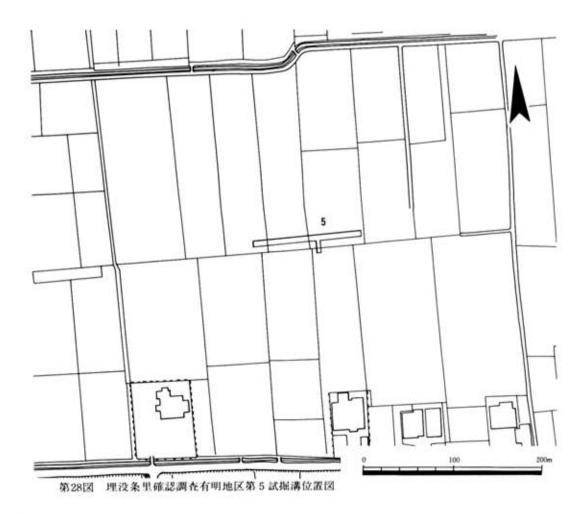


第27図 杵島郡条里界線復原図 (5万分の1) 日野尚志原図より ○内の数字は試掘溝番号

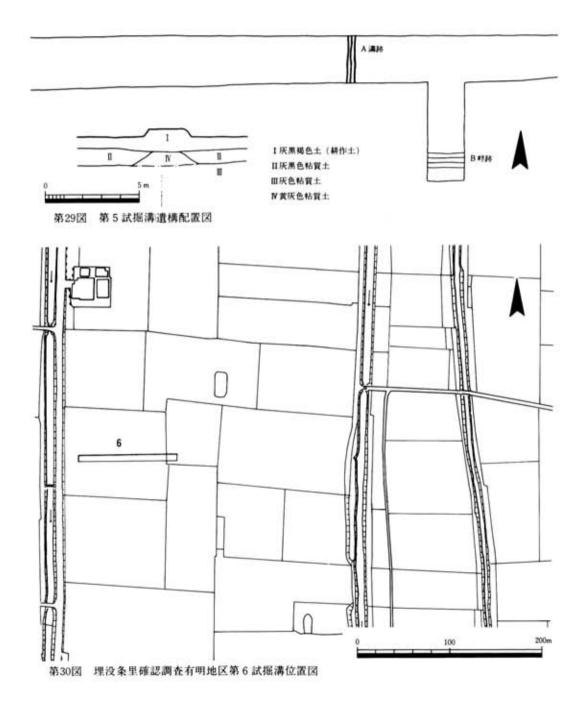
なっている。遺物は灰黒色土層から古墳時代の歓把手等が出土したのみで、灰黒色土層上面 には遺構は検出されなかった。

(2) 杵島郡

佐賀平野の南西部、杵島山地の東に位置する。一般にこの地域の平野部は、杵島平野あるいは白石平野と呼び慣されている。標高5m以下の低平地が大部分を占める。この地域はこれまでの圃場整備事業に伴う確認調査でもわかる通り、表土層の下は概ね灰色~灰白色の微細な粘質土であることが多いが、これについては筑後川の搬出する泥が有明海内の汐の干満に伴う潮の流れによって西にいく程堆積する土質が微細になること、杵島山地を形成する岩石が比較的硬質の玄武岩・安山岩・石英粗面岩からなっている上、雨量の少なさから六角川や塩田川が搬出する土が極めて微細であること等が考えられている。そのためこの地域の水田土壌はかなり柔らかで、雨が降ると淳状になる。



この地域で弥生時代に稲作がどの程度行われていたかはまだ議論の残る所である。しかし 杵島山地東麓の有明町深浦笹山で石包丁が出土していることや、弥生時代後期の集落跡が平 野部へ大分進出していること等から、一部地域での稲作は十分考えられる。古墳時代になる と稲佐神社の北で焼米や炭化米が出土しており、また多田集落東方で須恵器の散布が見られ る。



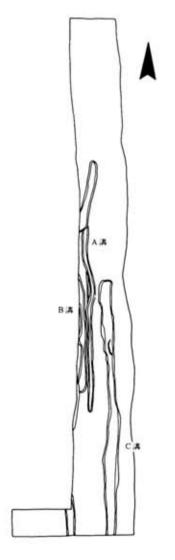


この地域の条里制がいつごろ施行されたかは、神埼郡同様明らかでない。里界線復原や遺 称名の採録は『有明町史』『白石町史』のほか、日野先生等によって行われており、この地域の 条里の特殊性が指摘されている。

この地域でも少なくとも12世紀以降になると杵島荘・中津荘・大田荘等の荘園が次々に覚 まれるようになったことが古文書等から判明している。

① 有明町

当地区は、杵島荘及び13世紀末に初見する杵島南郷荘の範田に当たると考えられる。 第5 試掘溝 (第28図) は、有明町大字坂田に所在する。試掘溝は当初東西の坪界線上に設



第32回 第8試掘溝遺構配置図

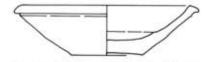
定していたが、作物の関係で止むなく東西の坪界線に 沿って、南北の坪界線を切る形で試掘溝を設定し、こ の試掘溝から東西の坪界線を1ヶ所切ってみた。その 結果、南北の坪界線(現在小畔として利用されている) 下からA溝跡、東西の坪界線(現在畔)下からB畔跡 が検出された。(第29図) A溝跡は幅14cm、深さ4~5cm の浅い溝で、表土下12cmの灰黒色粘質土に切り込んで いるが、遺物は磨耗した土製品らしきものが1点出土 したのみで、近代のものと思われる。B畔跡は幅70cm、 高さ15cmで、厚さ15~20cmの灰黒色粘質土層下の灰色 粘質土上面に作られていた。畔は黄灰色粘質土の土を 盛ったものである。

この畔付近から近世の陶磁器小片が十数点出土してお り、この畔も近世以降のものと思われる。

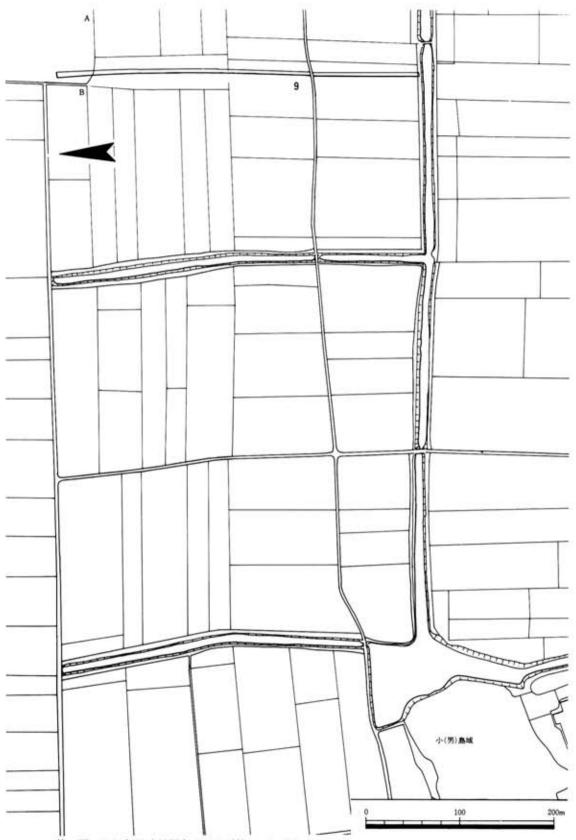
第6試掘溝(第30図)は、有明町大字牛屋に所在する。 この地区には条里遺構の存在は考えられていないが、 改めて確認するために条里復原線の延長上を調査して みた。その結果表土中より近世土器・土鍾が出土した のみで、遺構は検出されなかった。

② 白石町

第7・第8試掘溝(第31図)は、白石町大字横手に 所在する。国道207号線と長崎本線に挟まれた標高約2 ~4mの水田部に立地する。この地区は杵島郡条里の



-39-第33図 第8試据溝B溝跡出土白磁実測図(5/)



第34図 埋没条里確認調查白石地区第9試掘溝位置図

東限と考えられている。

第7試掘溝は国道207号線の沿った水田部に南北に設けた。その結果、遺構・遺物は検出されなかった。

第8試掘溝(第32図)は、只江川北側の水田部に南北に設けた。その結果、幅2.5m・長さ27mの試掘溝内に3本の南北方向の溝跡が検出された。これらの溝跡は表土下約15~20cmの灰色粘質土に掘り込まれていた。3本のうち中央のA溝跡は幅30cm、深さ10~17cmの小溝で、B溝跡に切られている。A溝跡からは、瓦器・土師器・白磁・龍泉窯青磁・滑石製石鍋及び石鍋の再加工品が出土した。A溝跡の西のB溝跡は調査区外にかかっているため一本の溝かどうかは不明である。規模はA溝跡と同程度と思われる。B溝跡のほぼ中央から、土師器椀・白磁皿が出土した。第33図はB溝跡出土白磁皿である。口径9.8cm、器高2.65cm、底部3.65cmを計る。見込みに段を有し、底部は若干凹む。口縁は「く」字状に外反し、端部は垂れる。器壁は厚い。釉は淡緑色を帯びた灰色を呈する。C溝跡はA溝跡の東に位置し、幅30~70cm・深さ6~20cmの小溝である。C溝跡からは、土師器・同安窯系青磁片が出土した。これらの溝跡は出土した遺物から鎌倉時代前半頃のものと思われ、また遺物が豊富なことから、少なくともこの時期に現在の国道付近まで集落跡が進出していた可能性が考えられる。

第9試掘溝(第34図)は、白石町大字湯崎に所在する。天文年間にこの地に移ってきた平井氏の居城である須古城(高城)の東の支域の小島(男島)城の北東に位置する。第27図を見てもらえればわかるように、この地点から東西に引いた線の北と南では、里界線が喰い違っており、その間に一坪弱幅分の帯状の余分があるが、小島城跡北のこの部分を北里、その南西部を西里と呼んでいる。今回の調査では、その余分の坪とそのすぐ南の坪を縦断した形で南北に約190mの試掘溝を設けた。

土層は概ね、耕作土 (15~20cm) ――灰黒色粘質土 (10~30cm) ――灰黒色粘質土と灰色 粘質土の混じる層 (0~10cm) ――灰褐色粘質土であった。遺構は現況のAB畔の2m南に東 西方向の溝跡を検出した。しかし、この一帯が通常湿気でゆるやかな地盤である上、折しも降っ ていた大雨のため、掘り下げることができなかったが、幅85cmの溝跡である。溝の埋土上部 より弥生後期の無頸壺片が出土。また試掘溝南端から20mの範囲に弥生後期~古墳時代の包 含層が出土した。付近にこの時期の集落跡の存在が予想される。

- 注1. 「川寄吉原遺跡」(佐賀県文化財調査報告書第61集)佐賀県教育委員会 1981
 - 2. 「詫田西分貝塚」(千代田町文化財調査報告書第2集)千代田町教育委員会 1983
 - 3. 「嘉瀬川農業水利史」九州農政局嘉瀬川農業水利事業所 1973等
 - 4. 「徳富権現堂遺跡」諸富町文化財調査報告書 1984
 - 5「シリーズ、歴史に挑む」「新郷土」昭和57・11~昭和58・1 月号等を参照
 - 6. 米倉二郎「東亜の集落」古今書院1960、日野「条里制の諸問題Ⅱ」奈良文化財研究所 1983等
 - 7. 日野尚志「固有里名の現在地への比定について一肥前国神崎郡の場合」「地域―その文化と自然」 1982
 - 8. 瀬野精一郎編『肥前國神埼荘史料』吉川弘文館 1975
 - 9「有明町史」有明町教育委員会 1969
 - 10. 日野尚志 1983前揭論文他

V. 筑後川下流用水事業に伴う埋蔵文化財確認調査 の内容

筑後川下流用水事業に伴う埋蔵文化財確認調査は、佐賀東部導水路の神埼地区、大詫間幹線水路の佐賀地区・ 千代田地区について実施した。

1. 佐賀東部導水路(神埼地区)

神埼地区は、神埼町の北部、神埼町大字尾崎に所在する。 日の隈山の南西、城原川西岸地域に広がる標高6~8 m の水田部に立地する。本遺跡の南には、昭和55年に県教 育委員会によって発掘調査が実施され、弥生~江戸時代 の生活跡が検出された尾崎西分遺跡が存在しており、各 時代に係わる遺構・遺物の検出が予想された。

調査は水路部幅7m、延長400mの調査対象地に20ヶ所 の試掘溝を設けて実施した。その結果、土器の小片が数 点出土したが、遺構は検出されなかった。

2. 大詫間幹線水路(佐賀地区·千代田地区)

佐賀地区は、佐賀市蓮池町大字見島に所在する。佐賀 市東端の標高3~4mの沖積平野部に立地する。対象地 南側には佐賀江川が東流しているが、この付近には蓮池 鍋島氏の民城である蓮池城や、菩提寺の宝眼寺等が存在する。



第35図 筑後川下流用水事 業に伴う文化財確認調査地 区位置図

尾崎土生遺跡

調査は、水路部幅46m、延長800mの調査対象地に19ヶ所の試掘溝を設けて実施した。その 結果、遺構・遺物ともに検出されなかった。

千代田地区は、千代田町の西部、大字黒井~境原に所在する。中地江川の東岸の標高3~4m の沖積平野部に立地する。対象地の東側には、昭和58年度の千代田町教育委員会による発掘 調査で銅剣・銅鉾の鋳型等が出土した姉貝塚や弥生時代及び鎌倉、室町時代の遺物散布地と して知られている姉二本松遺跡・境原四本松遺跡等が分布している。

調査は、水路部幅46m、延長1,400mの調査対象地に25ヶ所の試掘溝を設けて行った。その 結果、数ヶ所の試掘溝から土器小片が出土したが、遺構は検出されなかった。

VI. 昭和58年度発掘調査の概要

1. 天建寺十井内遺跡 (略号:TDK)

遺跡の所在地

三養基郡三根町大字天建寺

調査主体者

三根町教育委員会

調査期間

昭和58年4月~6月

調査面清

1,700 m2

遺跡の概要



天建寺土井内遺跡周辺地形図(S=1/25000)

天建寺土井内遺跡は、三根町の東端、筑後川沿いの標高3m余りの低平な沖積平野に立地 する。今年度の調査は、「天建寺」の北側(4区)と北東側(5・6区)の小排水路部分約1,700㎡ について行った。

4 区からは、近世の木棺墓を9 基検出した。木棺が残存しているものがあり、棺内から「寛 永通宝」が2~5枚出土した。

5 区からは、奈良時代~鎌倉時代の井戸跡10基、溝跡8条、土壙8基の他、柱穴と見られ る多数の穴を検出した。井戸跡は直径1.0~2.8m、円形の単掘りで井戸枠等の施設はない。 井戸跡内から土師器小皿・杯・龍泉窯系青磁碗などが出土した。遺跡は東西方向に延びるも のが多く、幅0.5~1.2m、深さは0.2~0.4mで溝の断面はU字状とV字状のものがある。溝 跡内から須恵器杯・蕎・土師器杯・瓦器碗などが出土した。

6 区は5 区と同様で、奈良時代~鎌倉時代の井戸跡4基・溝跡5条・土壙11基・柱穴と見 られる多数の穴の他、古墳時代の竪穴2基、鎌倉時代の土壙基1基を検出した。古墳時代の 竪穴は、長さ6.8m、4.5m、深さ0.2mの隈丸長方形で住居跡と考えられ、内部から土師器壺・ 甕・鉢が出土した。土壙墓は、長さ1.45m、幅0.75m、深さ0.25mの隈丸長方形で、内部か ら龍泉窯系青磁碗・土師器小皿が出土した。

このように天建寺遺跡は、筑後川沿いの標高3m程の沖積平野に位置する遺跡であり、古 代~中世にかけての幅広い遺構を検出したが、低平地集落の資料として又、「天建寺」研究の 資料として資する所が多いと考えられる。







- 1. 天建寺土井内遺跡 5 区全景 (東から)
- 2.6区全景(東から)
- 3. SP 601土壙墓

2. 天建寺南島遺跡 (略号:TKM)

遺跡の所在地

三養基郡三根町大字天建寺

調査主体者

三根町教育委員会

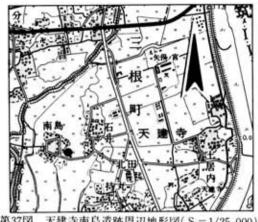
調査期間

昭和58年8月~10月

調查面積

1,000 m2

遺跡の概要



第37図 天建寺南島遺跡周辺地形図(S=1/25,000)

天建寺南島遺跡は、三根町の東側標高3m余りの低平な沖積平野に立地する。南島集落一 帯に広がる遺跡であるが、遺跡の東側を圃場整備事業の幹線水路が通ることとなり、この部 分の約1,000㎡について発掘調査を実施した。

遺跡は、弥生時代・中世の掘立柱建物跡・溝跡・井戸跡・土壙がある。掘立柱建物跡は、 1間×1間の建物が6棟、2間×1間の建物が2棟の8棟を検出した。柱穴から弥生中期土 器が出土しており、この時期の建物と見られる。溝跡は、調査区の中央を東西方向にほぼ平 行に延びる2条の溝跡と、南東端に南東から北西方向に延びる溝跡の3条を検出した。溝の 断面はU字状をしており、内部から土師器が少量出土した。ともに中世の溝跡である。井戸 跡は14基検出した。調査区の全域に分布し、形態は円形の単掘りで、井戸枠等の施設はない。 大きさは径1m以内のSE107から直径2.6mのSE112までさまざまで、深さは3m下の砂層 まで達している。内部からの出土遺物は少く、弥生土器、中世の土師器が出土した。土壙は 30基余りを検出した。井戸跡と同じく調査区の全域に分布するが、中央に多い。形態は長さ 2 m、幅1.2m、深さ0.6m程の隅丸長方形や、径 2 m、深さ1.2m程の円形に近いものがあり、 前者からは壺・甕・鉢・高杯・器台など多量の弥生土器が出土した。

このように天建寺南島遺跡は、弥生時代中期を主とする遺跡であり、近くには持丸貝塚・ 石井北方貝塚・本分貝塚など弥生時代の代表的な貝塚があり、これら遺跡との関連や低平地 での弥生時代集落の資料としても貴重である。





- 1. 天建寺南島遺跡全景 (南から)
- 2. SK139土壙
- 3. SE101井戸跡
- 4. SD101溝跡



3. 大曲遺跡群

大曲A・B遺跡(OMG(A)(B))----IA・IB 大曲柏原 A · B 遺跡(O K W A / B) ---- 2 A · 2 B B : M M N U(B) --- 3

遺跡の所在地

神埼郡東脊振村大字大曲

關查主体者

東脊振村教育委員会

調查期間

昭和58年4月~昭和59年3月

調査面積

10, 200 m2

遺跡の概要



大曲遺跡群周辺地形図(S=1/25,000)

大曲遺跡群は、東脊振村の南東部、脊振山系に源を発する田手川の東岸の標高25~26mの 河岸段丘上に立地している。周辺には、弥生時代~江戸時代にわたる多くの遺跡が所在する。

大曲遺跡第1地区は、大曲集落に西接する地区で、削平予定地1,000㎡について調査を行っ た。検出された遺構は中世の溝跡6条・土壙4基・小穴数個で、溝跡のうちの1条は1辺8m 程の方形をなしているが、性格は不明である。遺物は、土師器・陶磁器片が少量出土した。

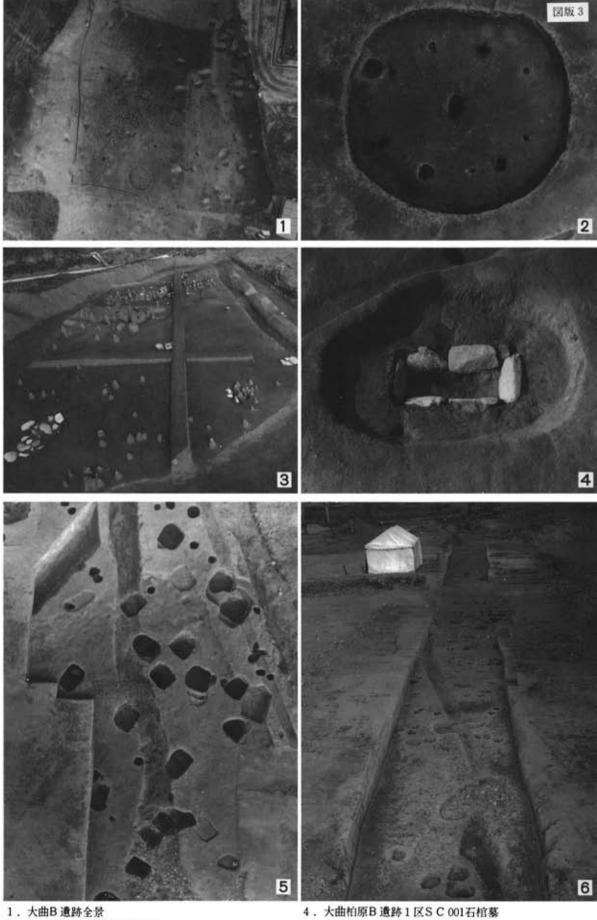
大曲B遺跡第1地区は、大曲集落の南方に位置する地区で、削平予定部3,200㎡について調 査を行った。検出した遺構は、弥生時代中期前葉の竪穴住居跡6軒、掘立柱建物跡3練、土 嬢7基、古墳時代から鎌倉時代にかけての溝跡5条等である。出土した遺物は弥生時代の土器、 石鏃・石包丁・石剣等の石器、古墳時代の須恵器、中世の土師器、近世陶磁器等である。

大曲B遺跡第2地区は、第1地区南西部の4,090mについて行った。検出した遺構は、竪穴 住居跡1軒・土壙1基・溝跡1条等で、土壙から弥生土器・石包丁・小形石斧等が出土した。 大曲 柏 原 A 遺跡第 2 地区は、横田兵陵の西方に位置する地区で、削平予定地1,400㎡につ いて調査を行った。中世~近世の溝跡・土壙が検出されたが、近世のものが多い。出土した 遺物は陶磁器片等で比較的少ない。水田又は畑作を行った遺跡と思われる。

大曲柏原B遺跡第1地区は、A遺跡の北方に位置する地区で、水路予定地及び削平部370㎡ について調査を行った。検出した遺構は、掘立柱建物跡20棟以上・土壙4基・溝跡13条・石 棺基3基・石蓋土壙墓3基・土壙墓1基等である。遺物は弥生土器・石器・土製品等である。

松ノ内B遺跡第1地区は、横田丘陵に東接する地区で、水路予定地140㎡について調査を行っ た。検出された遺構は、弥生~中世にかけての包含層と、平安~鎌倉時代の土壙8基(うち 井戸跡1基)、小穴等である。遺物は、瓦器、土師器・白磁等のほか、土鐘・石鏃が出土した。

以上のように大曲遺跡群では、弥生時代を中心に中・近世にいたる種々の遺構が検出され た。これらの遺構は各時代の集落跡や墓地、そして生産遺構までを含む包括的研究材料とし て貴重な資料である。



- 2. 大曲B遺跡SHO11住居跡
- 3. 大曲柏原B遺跡1区北部地区全景(南から)
- 5. 大曲柏原B遺跡1区掘立柱建物群
- 6. 大曲柏原B遺跡1区全景(南から)

4. 石動西一本杉遺跡群 (略号: NIS(B)—1)

遺跡の所在地

神埼郡東脊振村大字石動字西一本杉

調査主体者

東脊振村教育委員会

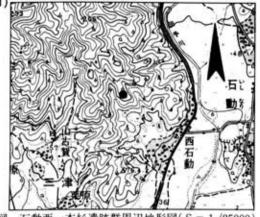
調查期間

昭和59年2月~3月

調査面積

350 m²

遺跡の概要



第39図 石動西一本杉遺跡群周辺地形図(S=1/25000)

本遺跡は、広域基幹林道佐賀東部線の開設に伴い発掘調査を実施した。脊振山から南南東 に延びる山塊から松葉状に派生する丘陵の尾根上、標高95mに位置する。本遺跡は、石動西 一本杉遺跡群(古墳群)の北端に位置しており、隣接する遺跡としては、西に妙見社遺跡(古 墳群)、東に西石動遺跡群(弥生~古墳時代)がある。

調査を行ったのは、竪穴系横口式石室を内部主体とする円墳で、古墳の東側は一部農道により削平を受けている。古墳は尾根の西側斜面を掘り込んで墓壙としており、盛土は残存しておらず不明である。周溝は北側と南側に残っており、幅1.8~2.5 m、復元すると外径約10 mになると推定される。石室は南北方向に主軸を持ち、長軸1.9 m、短軸0.9 mを計る。東側壁は一部倒壊しているが、西側壁は高さ約1 mが残存しており、天井石の一部も残っていた。腰石は南北に各1枚、東西に各4枚が使用され、それぞれ横長に立てて用いられている。腰石上部は小口積みにされており、両側壁ともやや内傾気味である。石室の残存状態は全体的にみると比較的良好と言えよう。

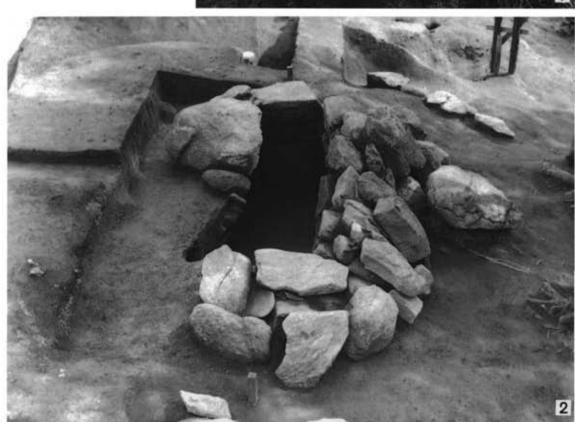
出土遺物は、多数の鉄製品が石室内より原位置を保った状態で検出できた。鉄刀が側壁に 沿って2振、鉄鏃が頭部付近からまとまった状態で約30本出土した。その他に周溝埋土上面 から中世の土師器・青磁・白磁片が若干出土したが、明確な遺構は検出できなかった。

今回調査を行った古墳は、この地域では数少ない竪穴系横口式石室を埋葬主体とする円墳 であった。構築年代は、石室構造や出土遺物より5世紀後半と考えられる。

東脊振村一帯は、古墳時代後期(6世紀代)の横穴式石室を主体部とする円墳は数多く存在するが、今回調査を行った形式のものは初めてであり、古墳文化を考える上で重要な資料 を提供してくれた。



- 1. 石動西一本杉遺跡全景
- 2. 石室(北から)



5. 的遺跡群船塚遺跡 (略号:FNT)

遺跡の所在地

神埼群神埼町大字志波屋字六本松

調査主体者

神埼町教育委員会

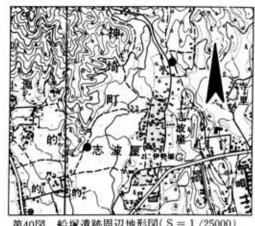
調査期間

昭和58年4月~5月

調査面積

3,500 m2

遺跡の概要



第40図 船塚遺跡周辺地形図(S=1/25000)

船塚遺跡は、 神埼町の北部に分布する的遺跡群の1つで、三本松川西岸に形成された標高 約40mの段丘に立地している。当遺跡の周辺には、押型文土器を出土する戦場を発遺跡・縄 文時代後期の竪穴住居跡が検出された志波屋六本松遺跡等、縄文時代の遺跡が集中する地区 である。

調査の結果、7枚の土層堆積が認められた。調査区外の良好な保存状態を示す地点の土層 から、調査区内では第IV層面まで削平されている事が確認された。

第Ⅳ層は、古墳 4 基・竪穴住居跡 4 軒・掘立柱建物跡 5 棟・土壙 6 基・溝跡 3 条がある。 古墳はすべて円墳で径約15m、横穴式石室である。掘立柱建物跡は、1 間×2 間、2 間×2 間、 2間×3間の建物である。

第Ⅴ・Ⅵ層は、縄文時代早期~前期の包含層である。土壙26基、集石3ヶ所、礫群2ヶ所 を検出した。土壙は平面長方形を呈し、底面に1~2個の小穴が認められるもので、落し穴 状遺構と考えられる。遺物は、轟式土器・曽畑式土器や石鏃・掻器・石斧などがある。また、 IV層下面で、縄文晩期に位置付けられる円形住居跡を1軒を検出した。

第Ⅶ、Ⅷ層は、先土器時代の包含層である。第Ⅶ層を主体に6ヶ所の遺物集中があり、総 数2.997点を検出した。遺物は、ナイフ形石器60点、台形石器3点・剝片尖頭器6点等がある。 この中で、瀬戸内系ナイフ形石器・翼状剝片及びその石核の出土は注目される。

船塚遺跡では、先土器時代~古墳時代の各遺構・遺物が検出された。先土器時代の検出は、 佐賀平野における先土器時代の指針を示すばかりでなく、九州先土器時代研究の中でも大き な位置を占める重要な資料である。特に、瀬戸内系石器群の共伴例として多くの課題を投げ かけた。また、縄文時代の遺構は、集落及び遺跡の構造・土器編年上良好な資料となる。

- 注1. 「船塚遺跡」神埼町文化財調査報告書第10集 1984
 - 2. 『志波屋六本松遺跡』神埼町文化財調査報告書第9集 1983

6. 於由西分貝塚(略号:TTN)

遺跡の所在地

神埼郡千代田町大字詫田

調査主体者

千代田町教育委員会

調查期間

昭和58年4月~6月

調査面積

300 m²

遺跡の概要



第41図 注出西分貝塚周辺地形図(S=1/25000)

詫田西分貝塚は、佐賀平野の中央部、城原川と田手川にはさまれた標高3~4mの沖積平 野上に立地する。遺跡の北側には荒堅自貝塚・森ノ木貝塚・高志神社遺跡等の佐賀平野を代 表する弥生時代目塚が所在するなど、周辺には弥生時代~江戸時代にかけての多くの遺跡が 分布する。調査は57年度の I ~ IV区の調査に引き続いて、今回は削平される畑地部分につい て調査を行った。

V区は『千代田町史』に「一アール余(畑)の処女地」と述べられた地区で、周辺の水田よ り50~70cm小高い畑地である。調査前にもこの地区一帯は、貝殻や多数の土器が散布していた。 国道264号線が作られた時この地区でも土取りが行われたらしいが、その際人骨や石棺等が出 土したという。この時V区の立地する畑には手がつけられていないとのことで、良好な状態 の貝層の検出が予想された。調査の結果、カキを主体とする約1mの貝層が検出された。出 土した遺物と土層から、この貝層が形成された時期は弥生時代前~中期にかけてで、上部は 中世までの攪乱を受けていることが判明した。出土した遺物は、貝殻・動物骨等の自然遺物・ 弥生土器・石器等である。貝層の下からは弥生時代中期を主体とする土壙・柱穴等が検出さ れたが、削平されないため埋め戻して保存した。V区の東南隅約40㎡からは前~中期のカメ 棺墓42基、土壙墓71基が検出されたが、ほとんどのものに人骨が良好な状態で遺存していた。

VI区は、V区の東約70mの所にある100㎡について調査を行った。その結果、古墳∼室町時 代の講跡3条、井戸跡2基、土壙3基、小穴11個が検出された。遺物は土師器・須恵器・白磁・ 青磁・滑石製石鍋・砥石等多くのものが出土した。

このように詫田西分貝塚は、弥生~室町時代までの幅広い時期の遺構・遺物が検出され、 貴重な資料を数多く得ることができた。特にV区から検出された多くの墓壙は弥牛時代の墓 制を知る上で重要な手がかりとなる。また人骨の遺存状態が非常によく、佐賀平野における 弥生時代人骨の特質を知る上で、重要な資料になった。

注. 「詫田西分貝塚」千代田町文化財調査報告書第2集 1983 (詫田西分貝塚 I 区・高志神社遺跡)



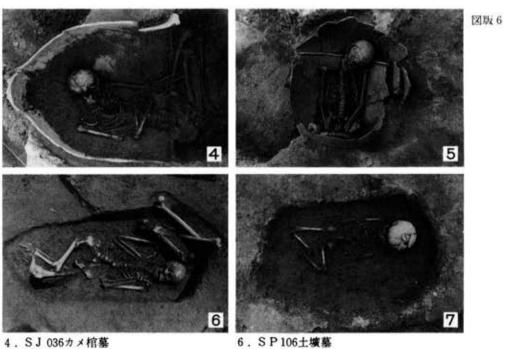




- 1. 詫田西分貝塚 V 区全景 (南から)
- 2. V区東南隅墓群全景 (南から)
- 3. 🥠 (西から)



第42図 詫田西分貝塚 V 区遺構配置図(1/120)



4. SJ 036カメ棺墓 5. SJ 047カメ棺墓

7. SP095土壤墓(小児骨出土状況)

7. 姉貝塚 (略号: ANE)

遺跡の所在地

神埼郡千代田町大字姉

調查主体者

千代田町教育委員会

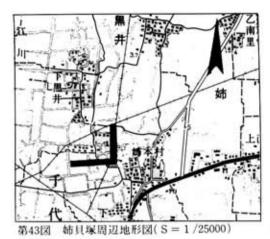
調査期間

昭和58年8月~昭和59年3月

調査面積

14,000 m2

遺跡の概要



姉貝塚は佐賀県の東部、佐賀平野の中央部に位置する。脊振山系に源を発する城原川、田 手川の堆積作用等の自然作用によって形成された平担な沖積地に立地する。町の中央を東西 に走る国道264号線付近には弥生時代の貝塚が点在しており、当時の海岸線がこの付近に存在 したと考えられている。現在の海岸線は、その後の沖積作用、大規模干拓事業による陸地化 によりはるか南に後退している。

周辺には大石貝塚、下黒井貝塚、詫田西分貝塚、下直鳥貝塚など多数の貝塚が点在し、姉 貝塚もそれら弥生時代の貝塚の1つである。調査は昭和58年度圃場整備地区のうち掘削を受 ける水路予定地10,000㎡について、便宜上これらを1~8区に分け調査を実施した。姉貝塚 の広がりは、東西400m、南北300mの約120,000㎡の広がりを持つと推定される大貝塚で、今 回調査を実施した部分は姉貝塚の東側部分にあたり、いわゆる貝塚の貝層堆積地点は、調査 区より約200m東方の竹林に存在する。

姉貝塚は、弥生時代と12~13世紀に形成された遺跡で、以下各調査区の概要を報告したい。

1区は、58年度調査地区の西側に位置する。遺構は、溝跡・土壙・井戸跡・大小の柱穴で 数も少なく、この調査区西方からは遺構は確認されておらず、姉貝塚の東限と考えられる。 遺物は、弥生土器・土師器・瓦器等の土器類が少量出土しただけである。

2地は、1区の東側に位置する。遺構は、溝跡・土壙・井戸跡・大小の柱穴などで、遺構の数も1区に比べていくらか増えるが、密度は、疎である。出土遺物は、弥生土器・土師器・ 瓦器・青磁・白磁の土器類の他、石器も少量出土した。

3 区は、2 区の東南に位置する。遺構は、溝跡・大小の柱穴で、数も少ない。この調査区 より南側からは遺構は検出されておらず、姉貝塚の南限と考えられる。遺物も弥生土器・土 師器・瓦器等の土器類が少量出土しただけである。

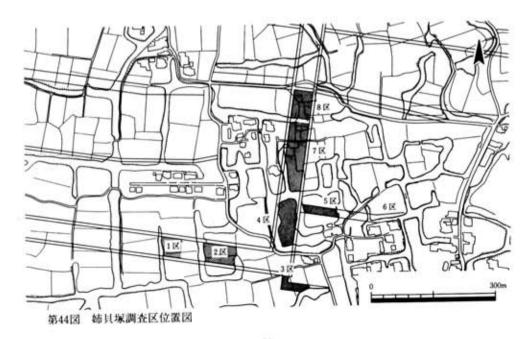
4 区は、3 区の北側に位置する。遺構は貯蔵穴・土壙・井戸跡・溝跡・大小の柱穴などで、 上面を耕作の為にかなり削平されている。遺構の密度も1~3 区に比べ増えており時期的に も弥生時代の遺構が増してくる。出土遺物は、弥生土器・土師器・瓦器・青磁・白磁の他、砥石・石包丁・石剣などの石器類も出土した。特に注目される遺物は、SK4004不定形土壙より出土した銅矛の鋳型で、矛の先端部分の長さ13.8cm、最大幅9.3cm・厚さ6cmで、佐賀県では鳥栖市安泉田遺跡出土のものについて2例目の出土である。

5 区は、4 区の東側に位置する。遺構は、溝跡・土壙・井戸跡・大小の柱穴などで、遺構の密度は比較的少ない。出土遺物は、弥生土器・土師器・瓦器・青磁・白磁の他、砥石・石包丁・石のみなどの石器類、またシカ・イノシシなどの献骨も出土した。注目される遺構としては、SX5008・5009不明遺構で、遺構の下層部分より検出した幅1 m、厚さ0.3mの貝殻の帯状の堆積は性格は不明であるが調査区を南北に走り、姉貝塚の〝貝塚〟との関連があるのではないかと思われる。

6区は、5区の東側に位置するが、保存の為未調査である。

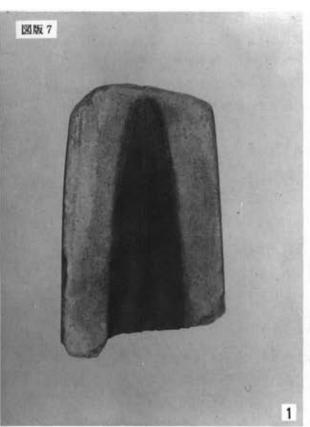
7区は、4区の北側に位置する。今年度調査を行った地区のうちで中心となる区で、遺構・遺物の量はきわめて多い。検出した遺構は、溝跡・井戸跡・貯蔵穴・土壤墓・祭祀遺構等で遺構数約250・大小柱穴数千におよぶ。出土遺物は、弥生土器・須恵器・土師器・瓦器・青磁・白磁等の土器・陶磁器類の他に、砥石・石包丁・石のみ・石剣・石斧・すり石・凹石・浮子などの石器類、イノシシ・シカ等の献骨などおびただしい量の遺物が出土した。特に注目される遺物としては、SK7101貯蔵穴より出土した銅剣の鋳型で、剣の下半部の長さ20.5cm・幅7.9cm・厚さ5cmのものが床面より出土した。

8区は、7区北に隣接する調査区である。遺構は、溝跡・井戸跡・土壙・貯蔵穴・祭祀遺構・ 大小の柱穴などで、7区と同様遺構の密度は高い。出土遺物は、弥生土器・土師器・瓦器・

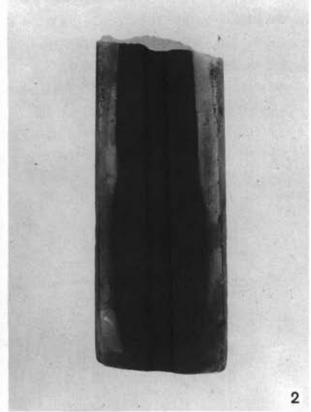


青磁・白磁の土器・陶磁器の他多数の石器も出土した。

今回調査を実施した姉貝塚は以上概略したように、佐賀平野における良好な弥生時代の遺跡で、いろいろな成果を収めることができた。ただ貝塚本体は検出されず今後の調査を待たねばならないが、これだけまとまった弥生時代の遺構等が佐賀平野の低湿地で調査された例は少なく貴重な発見である。現在資料整理中で調査結果は後日改めて報告を行いたいが、特に注目すべき点は、4・7区より出土した鋳型であろう。現在佐賀県内では、鳥栖市安永田遺跡出土の銅鐸鋳型・銅矛鋳型・東脊振村下石動出土の銅文の鋳型等数例の出土が報告されており、今回の調査で新しい資料を加えることができた。また今回出土した鋳型は共伴土器より弥生時代中期前半に位置付けられ、日本における青銅器の鋳造の開始年代に関する論議に貴重な問題を提議した。またこれらのこととともに、有明海沿岸の生活、また弥生時代貝塚の解明にも非常に重要な資料を提供する遺跡である。



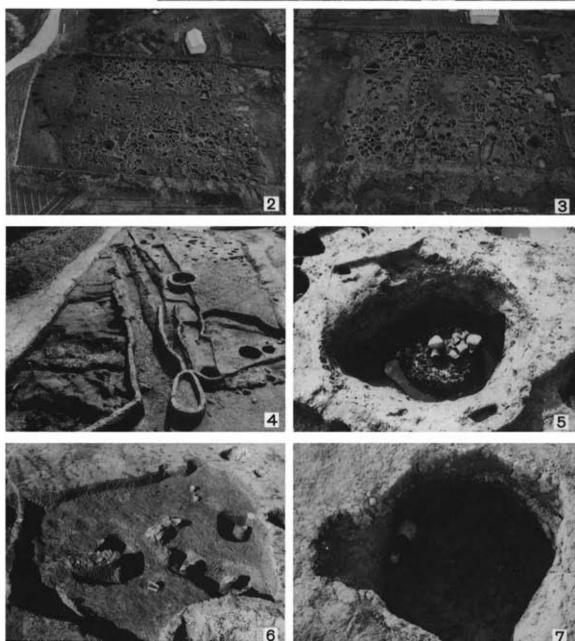
1. 4区出土銅鉾鋳型



2. 7区出土銅剣鋳型



- 1.7区南側全景
- 2.8区全景
- 3.7区北側全景
- 4.5区東側全景
- 5.7区SE7138井戸跡 遺物出土状況
- 6. 4区SK4004土壙
- 7. 7区SK7101貯蔵穴



8·德雷権現堂遺跡(略号:TGS)

遺跡の所在地

佐賀郡諸富町大字徳富

調查主体者

諸富町教育委員会

調查期間

昭和58年7月~昭和59年3月

調査面積

2,500 m2

遺跡の概要



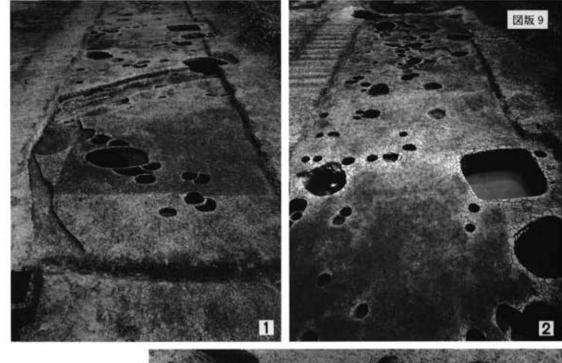
第45図 德富権理党資跡周辺地形図(S=1/25000)

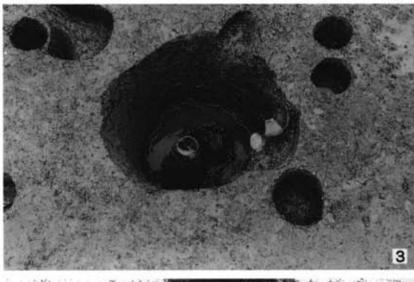
徳富権現堂遺跡は、筑後川から城原川が枝別れする部分の西岸、標高3m前後のなだらか な沖積平野上に立地する。この遺跡は、西覚寺西側と南北にのびる町道の間の、東西約150m、 南北約80mの範囲に広がる遺跡である。当該遺跡の東には中世の遺物散布地である徳富本村 遺跡が、又、西には同じく中世の遺物散布地である徳富五本松遺跡や中世の館跡である上大 津遺跡が存在する。昭和57年に約1,300㎡について発掘調査が行われたが、弥生時代~鎌倉時 代にわたる遺構・遺物が検出され、特に佐賀平野南端の弥生時代の遺跡として注目された。 今回調査を実施した二次調査区は、一次調査区の西側に位置する。

検出した遺構は、弥生時代後期・古墳時代前期及び鎌倉時代の掘立柱建物跡1棟・溝跡1 条・井戸跡9基・土壙8基のほか、柱穴と見られる多数の小穴を検出した。遺構の密度は、 東側が多く、SD201溝跡から西側は疎となる。特筆される遺物としては、弥生時代終末の井 戸跡から出土したほぼ完形の甕や壺・鉢・高杯等があり、また中世の井戸跡からは、白磁・ 瓦器・土師器等と共に、ヒョウタンの加工品が出土した。

この様に徳富権現堂遺跡では、さまざまな遺構・遺物が検出された。この2年間にわたる 調査によって、多くの資料を得ることができた。まず遺跡の範囲をある程度推定できたこと、 弥生時代終末~古墳時代にかけての遺構の広がりが確認され、佐賀平野南部の集落の変遷を 知るための資料を得ることができたこと等である。

注 「徳富権現堂遺跡」諸富町文化財調査報告書 諸富町教育委員会 1984







- 1. 徳富権現堂遺跡 2次調査区全景(東から)
- 2. 徳富権現堂 2次調査区全景 (西から)
- 3. SE 204井戸跡
- 4. SK 207土壙

9. 上大津遺跡(略号:KOT)

遺跡の所在地

佐賀郡諸富町大字徳富字上大津

調查主体者

諸富町教育委員会

調查期間

昭和58年9月~59年3月

調查而積

3, 300 m2

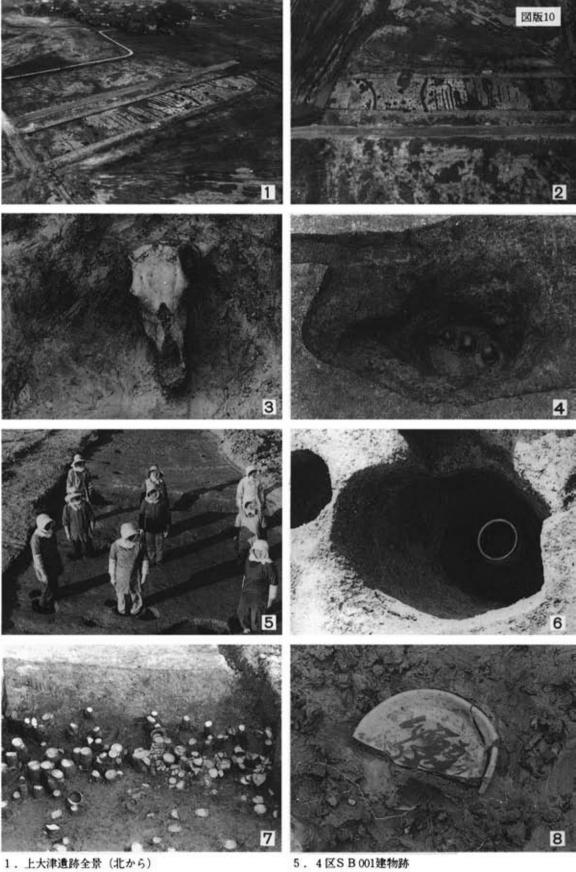
遺跡の概要



上大津遺跡は、筑後川西岸の標高3m前後の沖積平野上の微高地に立地する。本遺跡の南 東には昭和57~58年に調査された徳富権現堂遺跡(弥生時代終末~中世)・徳富本村遺跡(中 世)が、北西には大田本村遺跡(弥生~古墳時代)・大田城跡(中世館跡)が、南西には土 師本村遺跡・小杭遺跡(弥生・古墳時代、中世)等が所在する。遺跡は現在の上大津集落を 中心に、東西530m、南北約350mの約90,000mの広さを有する遺跡で、従来中世館跡である 上大津城跡等の遺跡として知られていた。

調査は水路予定地について北から1~5区に分け行った。1区は遺跡の北西にある地区で、 古墳時代後期~鎌倉時代にかけての井戸跡31基・土壙墓1基・溝跡25条・柱穴等が検出され、 須恵器・土師器・瓦器・越州窯系青磁・青白磁・白磁等の遺物が出土した。特に調査区のほ ば中央に位置する井戸跡から奈良時代の遺物と共に出土した馬の頭骨は、古代の宗教観を考 える上で注目される。2区は遺跡の西側にあたる地区で、奈良~鎌倉時代の遺物とともに、 井戸跡7基・土壙3基・溝跡12条・柱穴等が検出された。特に12条の溝跡は1区の溝跡とと もに条里的地割を考える上で興味が持たれる。3区は2区の東側に位置し、江戸時代の溝跡・ 柱穴等が確認された。4区は遺跡のほぼ中央に位置する。北側には古墳時代後期の井戸跡・ 2間×2間の掘立柱建物跡が検出された。中央部からは井戸跡8基・溝跡2条・3間×2間 の建物跡1棟・土壙墓6基・柱穴等が検出された。江戸時代前期の土壙墓からは、4~6才 児の人骨とともにコマや人形等の木製玩具や磁器等が出土した。なお4区北側以北は漸次密 度が低くなる。5・6区は遺跡の南東部に位置する。鎌倉〜戦国時代の遺物とともに、井戸 跡15基・土壙2基・掘立柱建物跡1棟・柱穴等が検出された。特に西側の4間×2間の建物 跡とそれを囲む溝跡は、この付近にあったと言われる寺院跡と考えられ注目される。柱穴か らは、鎌倉時代の瓦器・土師器・青磁・白器・墨書土器等が多数出土した。

以上のように上大津遺跡は、古墳後期~江戸前期にかけての遺構・遺物が多数検出され、 集落の変遷を知る上で、又各時代の生活様式を知る上で、多くの貴重な資料を得ることがで きた。



- 2. 上大津遺跡全景 (南から)
- 3. 1区井戸跡出土の馬の頭骨
- 4. 2区SE030井戸跡

- 6. 4区SJ 020埋ガメ
- 7.5区SD001溝跡(西から)
- 8.5区墨書土器出土状況

10. 織島西分C遺跡(略号:ONC)

遺跡の所在地

小城郡三日月町大字織島

調査主体者

三日月町教育委員会

調査期間

昭和58年4月~5月

調查面積

3,000 m2

遺跡の概要



織島西分遺跡は、三日月町の北部に位置する。天山山系の彦岳から東南東に延びる山塊のうち、高取山から南南西に派出した丘陵と南に派生した舌状丘陵に挟まれた標高24.5~29.5mの畑地及び水田部に立地する。当遺跡の西方には、旧石器時代の遺跡として知られている岡本遺跡、北方には老松山遺跡が所在する。また当地区のすぐ南には、小札鋲留眉庇付青・三角板鋲留衝角付青・横矧板鋲留短甲・錣・勾玉・管玉・馬具等豊富な副葬品が出土した丸山古墳が所在する。このように当該遺跡の周辺には、旧石器時代~歴史時代の多くの遺跡が分布していた。

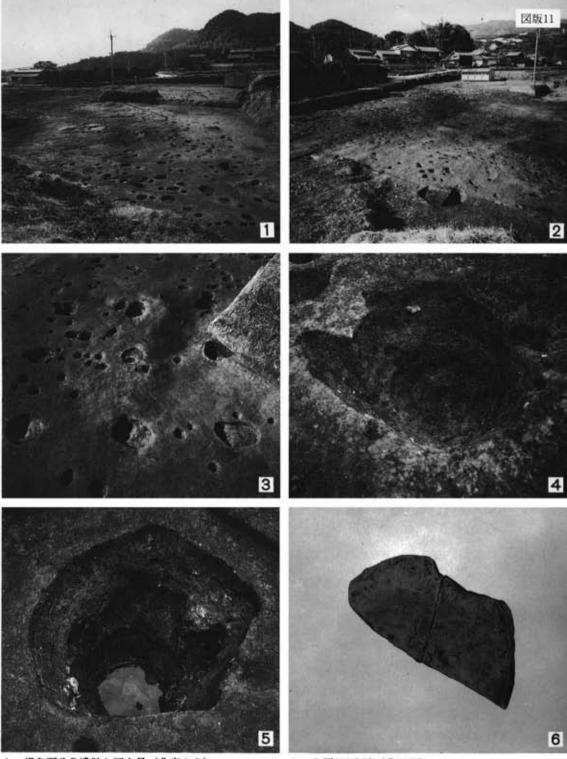
織島西分C遺跡B区の調査は、57年度の織島西分A・B遺跡及びC遺跡A区の調査に引き続いて行われた。

織島西分C遺跡B区で検出された遺構は、掘立柱建物跡1棟・井戸跡3基・土壙26基・火葬墓1基・土壙墓12基・溝跡13条・柱穴及び小穴約1,170個である。これらの遺構からは古代~中世の須恵器・土師器・黒色土器・瓦器・青磁・白磁・滑石製品等が出土した。注目される遺物として、奈良時代のSK061土壙から出土した人面をヘラ描きした土師器、平安時代のSD003溝跡・P.809柱穴から風字硯、P.808柱穴から緑釉陶器、SD003溝跡・SK011土壙から越州窯系青磁、平安~鎌倉時代の土壙墓から青磁・白磁が出土した。又、尖頭器・灰釉陶器が表採された。

織島西分C遺跡では主に南東側に平安時代の遺構が形成され、これらの遺構の性格は不明な 点が多いものの出土遺物は宮衙附近から出土する遺物に匹敵する。その他の部分は主に中世 の遺構で占められており、遺跡中央に形成された土壙墓群は主軸を東西にとるものが多く、 掘形も相似る所が多い。

織島西分C遺跡の南約1kmの一帯は、宇佐八幡領として文献に記載された赤自荘に比定されており、この地域がはやくから開発されていたことを窺わせる。なお織島西分C遺跡は、更に南東側に密に広がっているものと考えられる。

注.「織島西分遺跡群Ⅰ」三日月町文化財調査報告書第3集 1983 (織島西分A・B遺跡他) 「織島西分遺跡群Ⅱ」三日月町文化財調査報告書第4集 1984 (織島西分C遺跡)



1. 織島西分C 遺跡A 区全景(北東から)

- 2. 織島西分C遺跡A区全景(南東から)
- 3. A区SB038建物跡 (東北東から)

4. A区013土壌 (北から)

- 5. A区SE044井戸跡 (北から)
- 6. B区SK061土壙出土人面箆描き土師器

11. 序の前遺跡 (略号: SHO)

遺跡の所在地

武雄市橘町大字片白字志田町

調查主体者

武雄市教育委員会

調査期間

昭和58年7月~10月

調査而積

2,300 m2

遺跡の概要



第48図 庄の前遺跡周辺地形図(S=1/25000)

庄の前遺跡は橘町のほぼ中央、水田部に立地する。本遺跡のすぐ東には六角川が流れ、そ の東に杵島山がせまっている。遺跡の北側には墨書土器を出土した林副遺跡があり、南側に は青銅器等が出土した納手・茂手・みやこ等の遺跡が存在する。

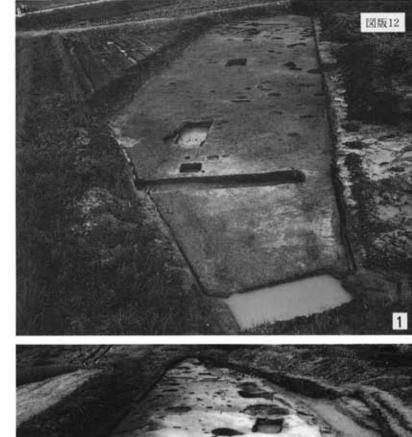
調査は幹線水路予定地について実施した。検出した遺構は掘立柱建物跡3棟・井戸跡2基・ 溝跡7条・十墻19基・性格不明遺構6基及び柱穴などである。明確な遺構は南半部に集中し、 北半部は包含層のほかは遺構は不明瞭である。井戸跡の2基はともに掘形が円形で井戸枠は 検出されなかった。建物跡は2×2間が2棟あり、うち1棟は東西棟である。他の1棟は3 ×2間で南北棟である。このほか調査区には包含層の存在が確認されたので、遺構が検出さ れなかった調査区中央部に試掘溝を1ヶ所設定した。出土した主な遺物は、土師器・須恵器・ 青磁・白磁・瓦器・木器・石製品・鉄器などである。土師器は包含層から出土したもので、 碗を中心に多数出土した。青磁・白磁・土師器杯・小皿・瓦器碗は、溝跡や土壙を中心に出 土した。木器 (漆椀) はSK031土壙より一括して出土した。石製品 (滑石製鍋) はSE020井 戸跡などから出土した。

今回の調査で確認されたことは、本遺跡周辺の水田面が標高5m前後であり、弥生時代に は生活の場ではなく湿地であったということである。六角川上流の標高8m付近では、茂手 遺跡・みやこ遺跡といった武雄地方の代表的な遺跡が存在することと対照的である。

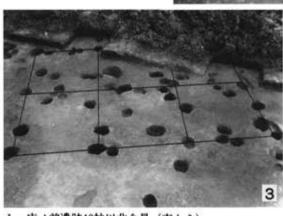
この遺跡の開始は包含層の土器から古墳時代中頃と考えられ、生活の場となった時期は鎌 倉時代を遡らない頃と考えられる。

とにかく、武雄平野開拓の歴史を探る上で重要な地点となることは確かであり、今後の周 辺の調査に期待がよせられるところである。

- 注1. 「庄の前遺跡(図版編)」武雄市文化財調査報告書第13集 1984 武雄市教育委員会
 - 2. 『茂手遺跡』六角川河川改修工事に伴う発掘調査概報 2 1982 武雄市教育委員会
 - 3. 「みやこ遺跡」六角川河川改修工事に伴う発掘調査概報 1981 武雄市教育委員会









- 1. 庄ノ前遺跡40杭以北全景 (南から)
- 2. 庄ノ前遺跡30杭以南全景 (北から)
- 3. 庄ノ前遺跡SB023住居跡(西から)
- 4. 庄ノ前遺跡試掘溝北全景 (東から)

12 東宮裾遺跡群

遺跡の所在地

杵島郡北方町大字大崎

調査主体者

北方町教育委員会

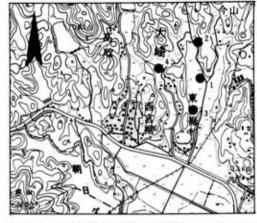
調查期間

昭和58年7月~10月

調查面積

1,600 m2

遺跡の概要



第49図 東宮裾遺跡群周辺地形図(S=1/25000)

東宮裾遺跡群は脊振山系西部に位置する徳連岳から南へ派生する丘陵部と扇状地部に立地する。当遺跡群は東から東宮裾遺跡・立山遺跡・立山古墳群・松瀬戸遺跡・陣ノ内遺跡・陣ノ内古墳群・桜木遺跡からなっている。本遺跡群内には、過去の調査で石蓋甕棺内から巴形銅器・星形銅器が出土した東宮裾遺跡、横穴式石室で耳環・馬具等が出土した立山一号墳が含まれる。また北方の谷あいの斜面上には須恵器窯跡・灰原が検出された牧古窯跡が所在する。

立山遺跡は丘陵に接した扇状地上に立地する。調査の結果、検出された遺構は、土壙 4 基・ 溝跡 3 条・掘立柱建物跡 4 棟・多数の小穴等で、このうち掘立柱建物跡は 2 × 2 間のもの 2 棟、3 × 2 間のもの 1 棟、他の 1 棟は調査区外にかかるため規模は不明である。出土した遺物は、弥生時代中期の土器が最を多く、その他は古墳時代の須恵器・土師器、中世の陶磁器等がある。

立山2号墳は立山遺跡北側の扇央部に立地する。前述の立山1号墳は、この古墳の南東約50mの地点に所在する。2号墳の墳丘は河川改修に伴い大部分が破壊され、わずかに石室の一部を確認することができた。墓道・周溝等は破壊され検出できなかった。主体部は横穴式石室で玄室の床面と北壁の腰石、北壁玄門等が検出された。石室内からは、須恵器平瓶・壺・杯・鉄刀子1・鉄剣片・耳環5・水晶製切子玉1・ガラス玉多数が出土した。

松瀬戸遺跡は、陣ノ内古墳群の立地する丘陵の東の水田部に立地する。検出された遺構は土壌1基・溝跡2条で、遺物は、弥生時代~中世の土器・陶器片が少量出土したのみである。 桜木遺跡は、立山遺跡の西約200mの谷部に立地する。検出された遺構は、弥生中期の土壌1基・小穴で、弥生中期土器少量・近世陶磁器類が少量出土した。

以上のように東宮裾遺跡群では、弥生時代~中世の遺構・遺物が検出されたが、そのうち 松瀬戸遺跡・桜木遺跡については調査区が狭小なこともあって、遺跡の性格は不明である。 杵島平野域の古墳文化は、副葬品等佐賀平野東部のものとは性格を異にしており、また東宮 裾遺跡出土の遺物とも考え合わせて、それらの問題に対する貴重な資料を得ることができた。







- 1. 立山遺跡全景(北から)
- 2. 立山遺跡南部地区全景 (北西から)
- 3, 立山遺跡土壙

13. 华間田遺跡 (略号:UMD)

遺跡の所在地

杵島郡有明町大字深浦

調查主体者

有明町教育委員会

調查期間

昭和58年12月~59年2月

調査面積

1,700 m²

遺跡の概要



第50図 牛間田遺跡周辺地形図(S=1/25000)

牛間田遺跡は、有明町の南西部、杵島山系南麓と塩田川に挟まれた水田部に立地する。こ の水田部に、東西に4ヶ所点々と連なる微高地が所在するが、そのうち西の2ヶ所より遺構 が検出されたため、調査を実施した。

調査は西から1・2区に分け実施した。その結果1区からは土壙24基、多数の小穴が検出 された。土壙は平面形・断面形ともにまちまちで、その性格は不明である。小穴の中には柱 穴としてまとまるのもあると思われ、現在検討中である。2区からは掘立柱建物跡1棟・小 穴群が検出された。掘立柱建物跡は3×1間のものであるが、梁行が4m以上もあるため、 類例等を集めて検討したい。遺物は各区から近世陶磁器がコンテナ2箱分、その他2区から は石臼が出土した。

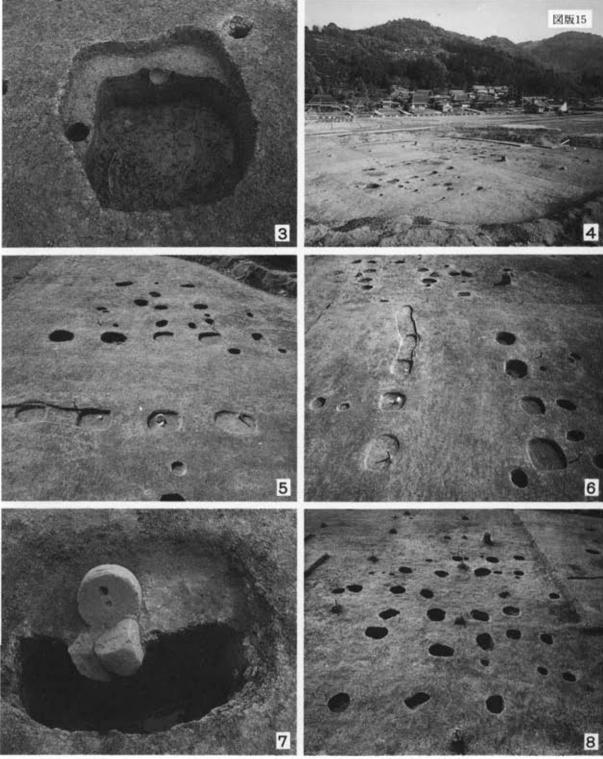
このように牛間田遺跡は、近世の生活跡と思われるが、周辺の水田部はいわゆる潟土で、 遺跡はそれぞれの調査区内で完結するものと考えられ、当時湿地帯の中に島状に残る部分に 営まれた遺跡であることがわかる。漁業前進基地等、類例を調べて検討していきたい。



1. 牛間田遺跡1区全景(北から)



2. 牛間田遺跡1区全景(南から)



3. 1区SK001土壙

- 4.2区全景(南西から)
- 5. 2区掘立柱建物跡(北から)

6. 2区掘立柱建物跡 (西から)

- 7. 2 区掘立柱建物跡石臼出土状況 (北から)
- 8. 2区小穴群(北から)

14. 伊岐佐中原遺跡 (略号:IKN)

遺跡の所在地

東松浦郡相知町大字伊岐佐

調查主体者

相知町教育委員会

調查期間

昭和58年8月~10月

調査面積

2.000 m2

遺跡の概要



伊岐佐中原遺跡は相知町の北部に位置する。東部の作礼山とそれに連なる山地に源を発す る左伊岐佐川と右伊岐佐川によって形成された段丘上に立地する。標高18~27mの緩い傾斜 地で、棚田が発達している。従来、この付近に確認された遺跡は少なく、北側山麓地帯に縄 文時代の遺物散布地である塩木遺跡や、伊岐佐中原古墳群が知られているのみであった。

確認調査の結果、9.400㎡の遺跡の存在が推定され、そのうち工事によって削平を受ける 2,000㎡について調査を実施することになった。

伊岐佐中原遺跡はI~IV区に分け調査を実施した。

I区 (850㎡) からは、甕棺墓1基・土壙7基・小穴約170個が検出された。小穴・土壙か らは縄文時代前期後半の曽畑武土器・石鏃・石錐が出土した。遺物包含層からも磨製石斧・ 石鏃が出土している。又、一部の小穴からは弥生時代の土器、平安~鎌倉時代の白磁・青磁 が出土した。甕棺墓は1基検出され、棺内からガラス管玉1点・碧玉製管玉3点が出土した。

Ⅱ区(700㎡)においては小穴約300個・溝跡1条が検出され、それらの遺構より弥生土器・ 土師器・砥石が出土した。又、青磁・黒曜石が表採された。

Ⅲ区(250㎡)では遺構は検出されなかったが、土師器・染付・石鏃等の遺物が出土した。

Ⅳ区(200㎡)でも遺構は検出されず、黒曜石が出土したのみであった。

本遺跡は、伊岐佐川の氾濫や、水田・畑等の棚状の耕作地を作った際、削平された部分が 多く、残りはあまり良いとはいえないが、今回の調査からこの一帯では縄文時代、弥生時代 ~平安・鎌倉時代に至るまで生活が営まれた事が確認できた。又、 | 区では確認調査の結果 から予想できなかった甕棺墓が検出され、その分布範囲を追調査する必要があろう。

注、昭和59年度に農業基盤整備事業の施行に先立って、本遺跡の南西で発掘調査が行われたが(伊岐佐 伊良尾遺跡)その結果、平安~鎌倉時代の鍛治遺跡と思われる遺構の存在が確認された。

15. 上場地区遺跡の概要

後川内仲ノ谷遺跡は、唐津市大字後川内に所在する。調査対象地は後川内集落の北東約 1.5kmの、名場越川が作る谷最深部の標高約110mの丘陵に立地する。調査はB地点(3,000㎡)、 C地点(2,500㎡)について実施した。

B地点では、耕作土より地山花崗岩パイラン土まで 4 層の層序が認められた。このうちⅢ層は中〜近世、Ⅳ層は縄文時代中期〜後期、Ⅴ層は旧石器時代後半期のそれぞれ包含層であることが確められた。また、Ⅱ〜Ⅲ層にかけて、近世の溝状遺構・焼土壙・柱穴・耕地区画が検出された。遺物はB地点で約4,000点出土した。旧石器時代のナイフ型石器20点、台形石器7点、グレイパー5点、刃器状剝片30点、細石核10点、細石刃100点、その他300点、縄文時代の石鏃80点、石槍・スクレイパー10点、その他磨製石器類、中期の並木式・福田C類、後期の中津式土器が出土した。中近世の遺物としては舶来系の蓮弁青磁(13~15C)、染付、天目、褐釉陶器、季朝系磁器、土師質皿、須恵質スリ鉢、唐津系陶器、古伊万里染付(17~18C)等の陶磁器類とキセルの雁首、吸口等の他、青銅金具等も出土している。B地点の調査では、V層のナイフ形石器群は横剝ぎ技法(国府系)の影響がうかがえる。A.T. (BC22,000年前)層直上期のものと考えられ、上場地区でも古相の石器群として注目される。その他後川内集落の形成や近世耕地の変遷を考える上で重要な資料が数多く確認された。

て地点では先土器〜縄文時代の包含層、住居跡、土壙、柱穴、近世の溝状遺構、旧河川跡等が検出された。このうち旧石器〜縄文時代の包含層は一部削平を受けており、全体の範囲は知り得なかった。近世期の焼土壌はほぼ一辺2.0mの平面正方形をなすもので炭化物が厚く堆積していた。遺物は旧石器時代の包含層よりナイフ形石器・刃器状剝片・石核が、縄文時代の包含層から石鏃・スクレイパーが、近世の遺構・包含層から唐津焼(17~18C)・古伊万里(18C~)・銅銭(寛永通宝)等が出土した。上場台地では旧石器〜縄文時代の遺跡は準平原状の台地丘陵上に点在していることが知られていたが、今回の調査によって谷沿いの低地にも丘陵緩斜面を居住区とする遺跡群が存在することを示唆した。また近世耕作地の変遷は昨年度の調査で明らかなように、15~16世紀以降谷沿いに平行で狭小な棚田状耕地から、削平盛土、乾田化を経て、尾根筋に直行する耕地へと移り、その耕地がより面積を拡張させていく過程がよく示されている。このことは15~16世紀の中世末期〜近世初期にさかのぼる上場地区の開始期と近世以降の発展という背景を考える上で重要なものである。また焼土壌については近年調査例が増えており、小規模炭焼き壌・戸外炉等、その性格は定義付けがされておらず、注目されるものである。

菅牟田黒龍遺跡の層序は耕作土 (15~20cm)、暗褐色粘質土 (15~20cm)、黄褐色粘質土 (5~30cm)、赤褐色礫混じり粘質土よりなっている。これらを上部より I~V層で示した。旧石

器時代の包含層はこのうち [[層上面~||]層にあたり、中心は [[層にあると考えられる。また 調査区東端では径20cm前後の扁平礫と10cm以下の小礫が集積されたように検出された。この 集石の周辺には、炭化物の集中、焼土等は検出されず、調査区が狭小なために結論づけ得なかった。遺物は総数435点が出土した。石器にはナイフ形石器・細石核・細石刃等がある。菅牟田 黒龍遺跡の調査によって、細石器文化の様相が知り得た。旧石器時代終末期、特に細石器文化期の唐津周辺の様相は、ナイフ形石器の残存もしくは共伴という形であるのではないかという予想が原遺跡の調査以来注目されてきた。本年度の石ヶ元下道遺跡の調査は、細石器時代の最終末の遺跡立地を考える上で重要なものであったが、本遺跡においてはナイフ形石器の存在より、ナイフ形石器の最終末のあり方を知る上で貴重なものといえよう。また菅牟田 地区の他の遺跡の分布ともからめ上場南端地区にあたる遺跡群の立地変遷を知る上にも重要な資料になるものと考えられる。

西浦遺跡は唐津市大字神笛に所在する。調査対象地は唐津市街地南部の旧砂丘列がつくる 後背湿地の西南地域に、派出した丘陵部に立地する。付近には同丘陵東端部に西浦遺跡、北 方約0.5kmに菜畑遺跡、桜馬場遺跡が立地している。神田氏の墓所も北側に隣接する丘陵に形 成されている。調査は西浦丘陵南側に開口する4ヶ所の谷部と丘陵頂部3ヶ所の計3,100㎡に ついて実施した。

その結果、古墳時代~奈良時代の集落跡および中世~近世の墳墓・石塔類を検出した。出土した遺物は古墳時代中期(5世紀)の土師器壺・甕・高杯・杯・器台等、奈良時代の土師器甕・須恵器杯・蓋、鎌倉時代の高麗青磁、近世の陶磁器多数が出土した。石塔類は安土・桃山時代から江戸時代にかけての五輪塔・宝篋印塔・無縫塔がある。今回の調査で唐津市域でも数少ない古墳時代の竪穴住居跡の検出と奈良時代の掘立柱建物跡の検出は特筆できよう。特に集落の立地が丘陵斜面特に谷部に集中し、小規模であることは、この集落が西浦遺跡(弥生~近世の複合遺跡)との関係を抜きにしては考えられないことを示している。中世~近世の石塔類はこの西浦遺跡に本拠を構える神田氏の一族の壙墓・供養塔として注目される。

枝去木遺跡の層位は上部より I 層・Ⅱ a 層・Ⅲ b 層・Ⅲ a 層・Ⅲ b 層に分けることができる。 遺物は I 層・Ⅲ a 層・Ⅲ b 層から出土している。特に Ⅲ a 層と Ⅲ b 層の上面から10~15 cm の部分 に密に分布している。平面分布では分布が密な所と粗な所があるが、密な部分はナイフ形石 器文化期のものが主体で、細石器文化期のものは少数で散在している。遺跡の時期は細石器 文化が10,000~13,000年前、ナイフ形石器は20,000年前後の時期と考えられる。しかし細石 器・ナイフ形石器は同レベルから出土しており、出土層位の上下によって時期差をとらえる ことはできない。注目さるべき遺物として土器がある。土器は6点出土したがそのうち5点 はE-13区からまとまって出土しており同一個体と考えられる。他の1点はE-16区から出土した。すべて小破片で土器の全体を復元することはできないが、おそらく口縁がわずかに外反する小型深鉢であろう。これらは[I] b層の上面から10-15cm下から出土したが、日本最古の土器のグループに入るものと考えられる。細石器文化からナイフ形石器文化と同一層から出土しており、10,000-20,000年前の旧石器文化に属するもので、さらに今後各種の分析をするとともに新たな資料の増加によって、もっと詳しい報告を行いたい。

な姿中野遺跡は唐津市湊町に所在する。調査対象地は、玄武岩質安山岩の溶岩台地である上場台地の北東端にある丘陵の標高130~170mの尾根上に立地する。この山塊は湊地区の小平野に北流する橋本川、西郷川の上流域となっている。遺跡付近には畑地が多いが、水利が不便なため灌漑用の溜池がみうけられる。現在もこの溜池と谷の湧水を利用した棚田が営まれている。調査区はA・B・Cの3地点でそれぞれ約6,000㎡、約2,000㎡、約7,000㎡の計15,000㎡であった。

遺構は弥生時代中期~後期を主体に、住居跡・柱穴群・焼土壙・掘立柱建物跡・カメ棺墓・その他がある。各地点別に示すと、A地点 焼土壙 6 基、B地点 焼土壙 8 基、C地点 住居跡 17棟・掘立柱建物跡20棟・焼土壙10基・小児カメ・カメ棺墓 7 基・その他貯蔵穴等がある。殊にC地点は標高130mに位置する集落跡であり、いわゆる「高地性集落」とも考えられる。住居跡は平面形態が円形もしくは方形の竪穴式で径 3 ~ 5 mの規模である。柱穴状の小穴や炉跡と考えられる焼土を床面にもっている。出土遺物は、弥生時代中期~後期の甕・高杯・器台等の土器、石斧・磨石等の石器の他、鉄鏃・鉇等の鉄製品も出土している。他には旧石器時代のナイフ形石器・細石器・押型文土器、石鏃等の縄文時代の遺物、それに中国青磁(龍泉窯系)・土師皿等の中世資料も出土している。湊中野遺跡で検出された集落跡は、唐津平野の弥生時代集落とは立地条件の異なる遺跡としてその性格は興味深い。特に、集落内の遺構の構成、周辺遺跡との相互関係等、弥生後半期の当地域の状況を解明する有力な資料と考えられる。

遺跡はA・Bの2地点あり、A地点は1~4区に、B地点は5、6区として調査した。表土層、 包含層からは旧石器時代、縄文時代の石器が出土し、5区からは特に多くの遺物が出土した。 遺構についてはどの区においても顕著なものは検出されなかった。

(注) 詳細は「七ツ江遺跡」(肥前町文化財調査報告書第4集)肥前町教育委員会 1984

16. 尾崎士生遺跡 (略号: OSH)

遺跡の所在地

神埼郡神埼町大字尾崎

調查主体者

佐賀県教育委員会

調查期間

昭和58年4月~6月、8月~10月

調査面積

1,139 m2

遺跡の概要



尾崎土生遺跡は神埼町の中央部、日の隈山南側の標高6~8mの扇状地上に立地している。 昭和56年度の調査(1~10区)および昭和57年度の調査(11区)により、弥生時代中期から 江戸時代後期にかけての広範囲な遺跡が確認されている。今年度は昨年度の調査のひきつづ き12区~14区の調査を行った。

12区は11区の西側にあたり、古墳時代~奈良時代・平安時代~鎌倉時代の遺構を検出した。 古墳時代~奈良時代の遺構は井戸跡 1 基(SE 211)・土壙 3 基(SK 201・209・211)・及び 柱穴がある。井戸跡より土師器コシキが、土壙より土師器杯・甕・カマド、須恵器杯・蓋・ 高杯・甕が出土している。出土遺物より SE 211・SK211が 6 世紀、SK201・209が 7 ~ 8 世 紀前半と考えられる。平安時代~鎌倉時代の遺構は井戸跡1基(SE202)・土壙5基(SK203 ~205·207·208) ·柱穴がある。井戸跡は二段掘りで、土師器椀・鉄鎌が出土した。土壙か らは土師器椀・杯・小皿・甕、白磁、滑石製模造鏡が出土した。

13区は12区の西側にあたり、古墳時代・鎌倉〜室町時代の遺構を検出した。古墳時代の遺 構は溝跡 4 条(SD301~304)と柱穴である。溝跡は幅0. 15~0. 3m、深さ0. 05~0. 2mで、ほ ぼ南北に走る。溝内より土師器杯・須恵器杯が出土している。鎌倉〜室町時代の遺構は土壙 2基(SK308・309)・溝跡1条(SD305)・柱穴である。土壙は平面が円形・不整形で埋土 から土師器杯・瓦質土器鉢が出土した。溝跡は幅5m、深さ0.6mでほぼ南北に走る。溝内よ り瓦質土器鉢が出土。

14区は11区の東側にあたり、弥生時代中期・古墳時代(5~6世紀)の遺構を検出した。 弥生時代の遺構は土壙1基(SK403)で甕・飯・高杯が出土している。古墳時代の遺構は井 戸跡2基(SE405・406)・瀟跡3条(SD401・402・404)である。井戸跡は平面が円形で、 埋土から土師器甕・飯、須恵器杯、刀の柄が出土している。溝跡は幅0.5~3.5m、深さ0.1~ 1.0mでほぼ南北に走る。溝内から土師器杯、須恵器杯、横槌が出土している。

今回調査を行った12~14区のうち12区は遺構が密集しており、遺跡の中心部に近く、13・ 14区は遺構の密度が疎で遺跡の西端および東端に近いと考えられる。







- 1. 尾崎土生遺跡12区全景 (西から)
- 2. 尾崎土生遺跡13区全景 (東から)
- 3. 尾崎土生遺跡14区全景 (西から)

Ⅶ.総 括

昭和58年度に実施した農業基盤整備事業に係る文化財確認調査は、佐賀東部地区で鳥栖市・北茂安町・三根町・三田川町・神埼町・千代田町の8地区・佐賀西部地区で多久市・小城町・大和町・佐賀市・諸富町の7地区、佐賀南部地区で武雄市・北方町・大町町・白石町・有明町・塩田町・嬉野町・太良町の17地区、佐賀北部地区で伊万里市・西有田町・相知町の7地区、佐賀上場地区で唐津市・鎮西町・玄海町・肥前町・呼子町の9地区である。佐賀東部地区三瀬村土師地区、佐賀西部地区富士町上ノ平地区、佐賀南部地区塩田町北大草野・塩吹地区、佐賀北部地区七山村白木道太郎地区については踏査を行った。また、神埼町・三田川町・白石町・有明町については埋没条里確認調査を実施した。その他筑後川下流用水事業に係る文化財確認調査は佐賀市・千代田町・神埼町の3地区について行った。発掘調査は佐賀東部地区1遺跡、佐賀西部地区6遺跡、佐賀北部地区1遺跡、佐賀上場地区8遺跡、筑後川下流用水事業1遺跡について実施した。以下確認調査については地区ごとに、発掘調査については各時代ごとに簡単にまとめた。

文化財確認調査

佐賀東部地区 鳥栖市一ノ坪地区、北茂安町北茂安西部地区、三根町三根東工区、神埼町本堀工区、千代田町姉工区で遺跡が確認された。一ノ坪地区は奈良・平安時代の住居跡・柱穴が検出され、生活跡と考えられる。北茂安町西部地区では平安~室町時代にかけての柱穴・溝跡が検出され、集落跡と考えられる。三根東工区では弥生時代~中世にかけての柱穴・土壌が検出され、集落跡と考えられる。本堀工区では弥生時代~室町時代の遺物を豊富に含む包含層が検出された。集落跡と考えられ、また貝殻も出土していることから、貝塚の存在も予想される。姉工区では弥生時代の井戸跡・柱穴が検出され、集落跡と考えられる。

佐賀西部地区 諸富町諸富工区、大和町川上南部第1・第2地区、多久市多久東部地区で遺跡が確認された。諸富工区では、東の大堂で弥生時代終末および中世の井戸跡・溝跡等が、西の加与丁では近世の井戸跡・住居跡・溝跡等検出され、それぞれ集落跡の存在が予想される。川上南部第1地区・第2地区でそれぞれ弥生時代を中心とする溝跡・土壙・柱穴等が検出され、各々集落跡と考えられる。多久東部地区では、弥生~中世の遺構の他に、旧石器~縄文時代の遺物包含層も検出されており、幅広い時期の遺跡として注目される。

佐賀南部地区 武雄市橋地区、有明町有明第3期で遺跡が確認された。橋地区では弥生時代の小児カメ棺らしきもの1基が検出されたが明確な性格は不明である。有明第3期では中 〜近世の土師器とともに土壌が検出された。なお、塩田町塩田地区の鳥坂には板碑があり取 扱いに注意したい。

佐賀北部地区 伊万里市天神搦地区・東山代東部地区・腰岳地区、相知町伊岐佐地区で遺跡が確認された。天神搦地区では中世の遺物包含層が検出され集落跡の存在が予想される。

東山代東部地区では弥生時代後期から中世にかけての遺物包含層が検出され、当該時期に係 わる遺跡の存在が考えられる。腰岳地区は腰岳西麓に位置し、従来より黒曜石製石器の原産 地として知られていたが、今回の確認調査でも夥しい量の黒曜石製石刃・石核・剝片が検出 され、縄文時代の石器製作遺跡の存在が予想される。伊岐佐地区では土壌・小穴が検出され その中から焼土・鉄滓が確認されており、平安~鎌倉時代の鉄に関係する生産遺跡の存在が 予想される。

佐賀上場地区 唐津市小十地区で近世物原、名場越地区で旧石器・縄文時代遺物包含層、 た計画を表現した。 見借地区で弥生時代集落跡、馬部地区で縄文時代集落跡、肥前町通山・野稲畑地区で旧石器・ 縄文時代遺物包含層、呼子町加部島で古墳がそれぞれ確認された。

筑後川下流用水事業 佐賀東部導水路・大詫間幹線水路に係るものとして、神埼町尾崎・ 千代田町黒井~境原・佐賀市蓮池町を調査したが、遺構は確認されなかった。

埋没条里確認調査

条里地割が比較的良好な状態で残っている神埼郡神埼町・三田川町、杵島郡有明町・白石町について実施した。神埼郡では主に古文書に記録として残っている箇所について、杵島郡については条里遺構の有無について実施したが、全体的には条里調査の初年度として埋没条里遺構とはどういうものかということに力点を置いた。その結果、有明町坂田、白石町横手、湯崎で溝跡および畔跡を検出した。ここでは今回の調査の反省点を述べてまとめとしたい。第1に地元からの要望であまり深い試掘溝を長くは掘れなかったことで、これは佐賀平野が一般に低湿地であるという条件に起因するが、特に神埼郡では土層確認のため試掘溝内に小試掘溝を設ける程度で押さえ、遺構そのものの確認が不十分であったこと、条里調査で最も必要な聞き取り調査を行えなかったこと等である。次年度以降、これらの点を改善しながら調査を進めていきたい。

発掘調査

旧石器時代 的遺跡群船塚遺跡では遺物包含層が検出されたが、この遺跡は佐賀平野におけるこの時期の空白を埋めるものとして注目され、また瀬戸内技法によって剝取された翼状 剝片を素材とする国府型ナイフ及び同石核の出土は注目される。上場台地では後川内仲ノ谷遺跡で遺物包含層が検出され、居住区立地の問題に興味深い資料を提出した。菅牟田黒龍遺跡でも遺物包含層が検出され、上場地方におけるナイフ形石器の最終末のあり方を知る上で貴重な資料が出土した。また枝去木遺跡でも遺物包含層が検出されたが、ナイフ形石器と同一層と思われる層から出土した土器は日本最古のグループに属するものとして特筆すべきであろう。

縄文時代 船塚遺跡から前期の小穴・落し穴状の土壙、後期の竪穴住居跡が検出された。 伊岐佐中原遺跡では小穴・土壙から前期の土器・石鏃・石錐が出土した。上場台地では後川 内仲ノ谷遺跡で住居跡・土壙・小穴や中・後期の包含層が検出され、また七ツ江遺跡でも遺 物包含層が、鶴崎遺跡群では墓地が検出された。 弥生時代 注目されるものとして詫田西分貝塚 V 区の前~中期の墓地があり、約120の土壙墓・カメ棺墓が検出されており、人骨が良好な状態で遺存していた。また貝塚もよく残っており、前年度の調査も合わせてこの地域の墓制・食生活等総合的な集落のあり方を知りえたのみではなく人類学上でも貴重な資料を数多く得ることができた。姉貝塚は弥生時代が主体の遺跡で貯蔵穴・祭祀遺構・井戸跡・溝跡等が多数検出されたが、特に注目されるのは、銅剣・銅鉾の鋳型の出土で、青銅器の起源論争に大きな波紋を投げかけた。大曲遺跡群大曲柏原B遺跡では、石棺墓・石蓋土壙墓・土壙墓等の墓地のほか、掘立柱建物跡が検出されており、墓地と集落の関係を考える上で興味深い。また湊中野遺跡では中~後期を主体とした住居跡・焼土壙・カメ棺墓等が検出されたが、唐津平野部の集落跡とは立地条件の違う集落跡として注目される。その他、天建寺南島遺跡、大曲B遺跡、松ノ内B遺跡、尾崎土生遺跡、徳富権現堂遺跡、楢田三本松遺跡、庄ノ前遺跡、立山遺跡、松瀬戸遺跡、桜木遺跡で各々集落跡が、伊岐佐中原遺跡、鶴崎遺跡群で墓地が検出され、それぞれ貴重な資料が得られた。

古墳時代 集落跡としては、竪穴が検出された天建寺土井内遺跡、住居跡・井戸跡等が検出された徳富権現堂遺跡、井戸跡・溝跡が検出された尾崎土生遺跡等がある。西浦遺跡で唐津地方では数少ない竪穴住居跡が検出されたことは特筆すべきであろう。また船塚遺跡では6世紀後半の4基の円墳に隣接して竪穴住居跡が検出され注目される。墳墓は上記の船塚遺跡のほか石動西一本杉遺跡群でこの地域では数少ない竪穴系横口式石室を内部主体とする円墳が検出され、鉄刀2本、鉄鏃約30本が検出された。また東宮裾遺跡群立山2号墳では、石室は一部しか検出されなかったが、切子玉・耳環・ガラス玉・刀子等が検出された。

古代(奈良・平安時代) 天建寺土井内遺跡は低平地の集落跡として注目される。詫田西 分貝塚 NI 区では井戸跡・土壙が検出された。上大津遺跡では井戸跡・土壙等が検出されたが、 そのうち I 区の井戸跡からは奈良時代の遺物とともに馬の頭骨が出土しており、古代の宗教 観を考える上で貴重な資料である。また溝跡は条里地割との関連が考えられている。織島西 分C遺跡では、平安時代の集落跡が検出されており、遺物は土師器・瓦器・黒色土器・白磁・ 越州窯系青磁・緑釉陶器・風字硯等、官衙跡出土のものに匹敵するものが出土している。特 に人面をヘラ描きした土師器は興味深い。そのほか尾崎土生遺跡・西浦遺跡で集落跡が、庄 ノ前遺跡で包含層が検出されている。

中世 (鎌倉・室町時代) 近年中近世期の集落跡・墳墓への関心が高まりつつあるが、天建寺土井内遺跡では集落跡が検出され、正応元 (1288) 年創建とされる天建寺との関連で注目される。天建寺南島遺跡でも井戸跡・溝跡が検出されており、集落跡と考えられる。大曲A遺跡では溝跡・土壙が検出され、隣接する大曲集落の前身の遺跡として注目される。詫田西分貝塚 VI 区でも溝跡等が検出されているが、調査面積が狭く性格は不明である。姉貝塚でも集落遺構が検出されている。徳富権現堂遺跡では鎌倉時代の集落跡が検出され、井戸跡からヒョウタンの加工品が出土した。また上大津遺跡でも集落跡が検出され、瓦器・土師器・青磁・白磁・墨書土器が出土した。特に寺院跡と思われる建物跡の検出は注目される。この両

遺跡は、中世の貿易地としての性格からの検討を今後行っていく必要があろう。吉富遺跡・ 尾崎土生遺跡でも集落跡が検出された。織島西分遺跡で検出された集落跡は、平安時代のも のと合わせ、この地域での位置を今後検討してゆかねばならない。庄ノ前遺跡はこの時期に 集落として出現しており、杵島平野における集落の進出を考える上で貴重な資料となる。西 浦遺跡では高麗青磁が出土した。

近世(安土・桃山時代・江戸時代) 天建寺土井内遺跡では近世の木棺墓が9基検出されたが、中から「寛永通宝」が出土し、民俗例と考え合わせると興味深い資料である。大曲柏原A遺跡では溝跡が数多く検出されたが、耕作地と考えられ、現在の地割との比較検討すれば興味深い資料が得られるであろう。詫田西分貝塚 VI 区では溝渠跡が検出された。牛間田遺跡では掘立柱建物跡等が検出され、陶磁器類・石臼が出土した。後川内仲ノ谷遺跡ではまだ性格がはっきりしていない焼土壙が検出され、類例を増やすこととなった。また溝状遺構は近世の耕地変遷を考える上で貴重な資料である。西浦遺跡では、安土・桃山~江戸時代の五輪塔・宝篋印塔・無縫塔が検出された。

佐賀県文化財調査報告書第79集 佐賀県農業基盤整備事業に 係る文化財調査報告書 3

発行 昭和60年3月31日 佐賀県教育委員会 佐賀市城内1丁目 印刷 西部印刷企画株式会社 佐賀市鍋島町八戸1323-4 TEL 0952-24-3569

